

八戸三社大祭参加百二十周年記念誌

六日町附祭若者連



魚町

八戸三社大祭参加百二十周年記念誌

六日町附祭若者連

目次

山車写真と解説	(昭和三年～昭和六十年)	1
随想	六日町附祭若者連 元山車制作責任者 石橋敏文	39
写真と解説	(昭和六十一年～平成二十五年)	43
資料・年表		81

六日町附祭若者連

八戸一社大祭参加百二十周年を迎え

本年二〇一二年（平成二十五年）我、六日町若者連は、明治二十六年初参加以来、第二次世界大戦など幾多の苦難を乗り越え、参加百二十年という節目の年を迎える事ができました。これもひとえに六日町町内会・鷹匠小路町内会・六日町商店街振興組合・鷹匠小路商店振興会をはじめ、山車小屋建設場所を御提供下さっております佐々木隆蔵商店、並びに地域の皆様の温かいご支援・御協力の賜物と心より感謝しております。

私達六日町若者連は、数多くの先輩方の苦勞と努力を忘れる事なく心に刻み、今後も『これが六日町だ』という山車製作に精進致します事を御誓い申し上げます。

また、今回発行します百二十周年記念誌ですが、長きに亘り脈々と受け継がれて来ました山車の歴史を懐かしむと共に、さらに、次の世代へ引継いで行く為のきっかけとなれば望外の喜びであります。末筆になりますが、記念誌発刊にあたり、資料・写真等の提供に御協力下さいました皆様に対し、心より御礼申し上げます。



昭和三年、門附用の名刺かと思われる印刷物、稲垣美術印刷所発行とある。

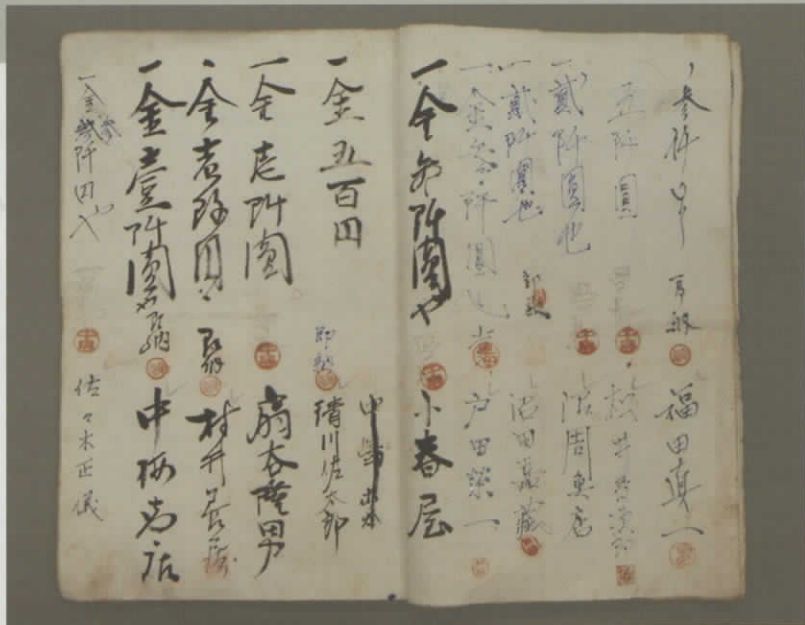
昭和3年「^{あま いわ と}天の岩戸」

木札には「^{たちからおのみこと}手力男尊 ^{こくそ}天の岩戸を開きて ^{あまてらすおおみかみ}國祖を招き給う」とある。^{オオヒルメノムチ}國祖とは天照大神＝太陽女神のこと。

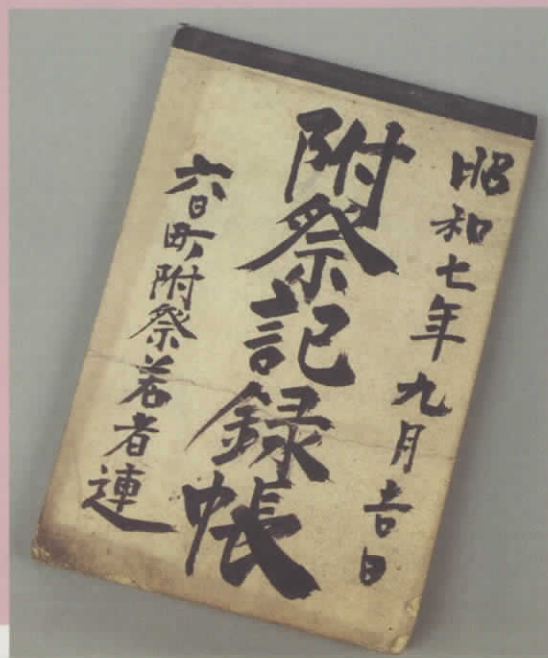
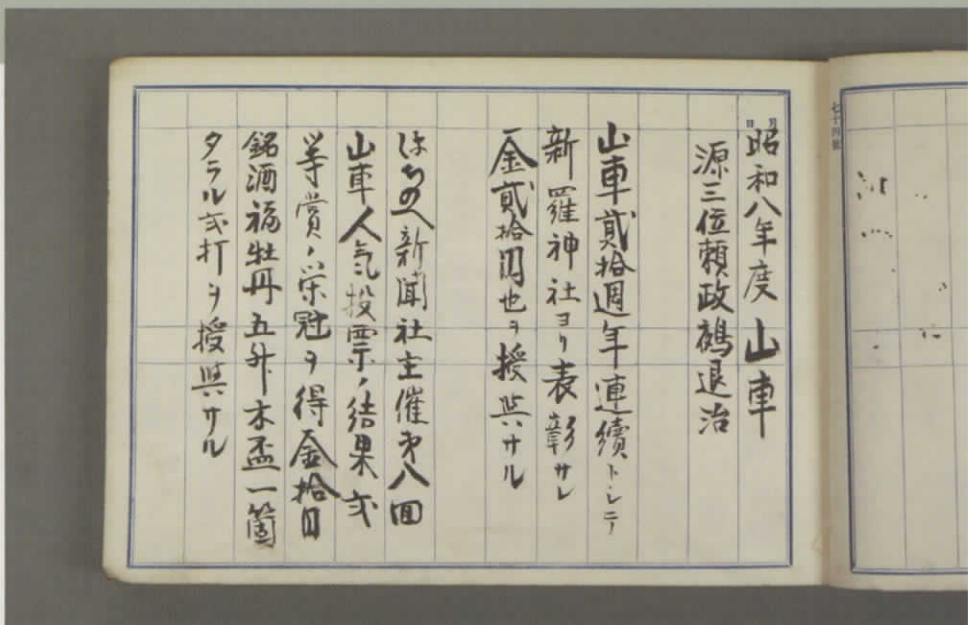
1928.9.3 鑑賞審査二等賞の札が見える。撮影は^{やまのした}長者山下と思われる、右奥遠くに見える建物は何であろうか、国立病院（療養所）は当時まだ設立されていない



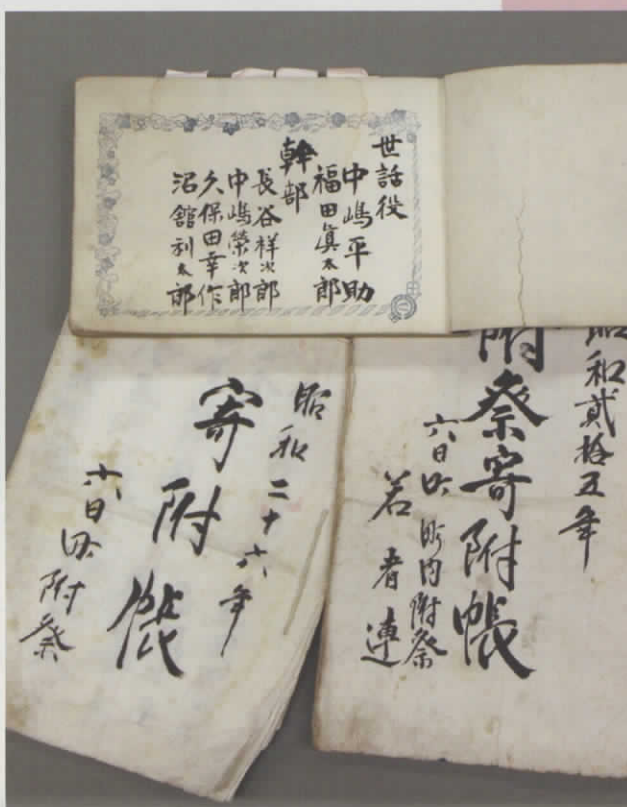
福真、松井、沼田、沼周と魚店の名前がずらり



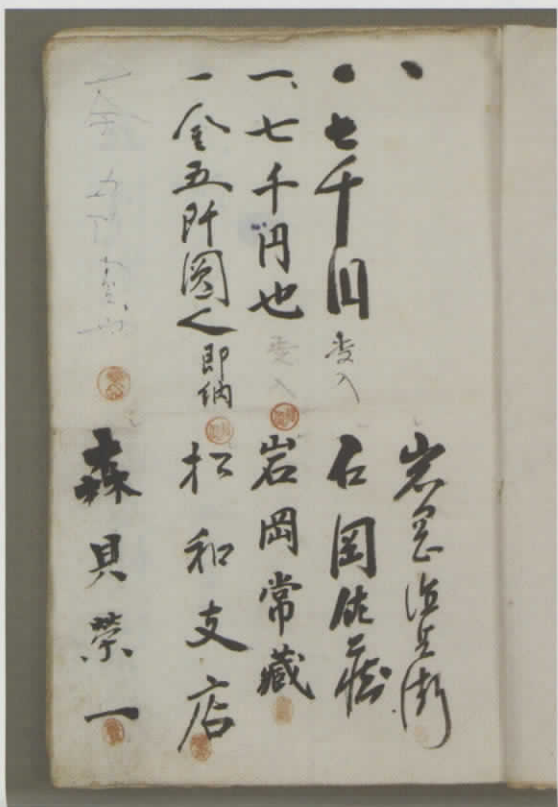
昭和八年、二十年連続参加として表彰



上は昭和八年 下は昭和二十五年、二十六年の寄付帳



選挙違反を恐れてか岩岡徳兵衛の欄には金額の記載がない



昭和11年「朝比奈三郎 和田城門を破る」

1936.9.2 六日町・澤銀せんべい店（現 味ビル）付近



1947.9.1 福田辰男 所蔵

源義経が武蔵坊弁慶らとともに奥州平泉を目指し通りかかる。弁慶が偽りの勸進帳を読み関守富樫泰家（左衛門）の温情で関所を通過できたという歌舞伎ではみなさんお馴染みの話。

「義経記」には、源義経が「如意の渡し」（富山県小矢部川）に乗り船しようとしたとき、渡守の平権守に義経であることを見破られるが、弁慶の機転で、義経を扇で打ちすえ無事に乗船できたという。

この話を元にして能の「安宅」や歌舞伎の「勸進帳」などが創作されたが、舞台は加賀の安宅（石川県）になっている。県の史跡ではあるが、史実としての関所の実在は不明である。



1946.9.1 六日町・中梅（現みろく横丁）前 集合写真 撮影者 不詳 題名等にローマ字が併記されている

昭和 21 年 「寿三番叟」
ことぶきさんばそう



1946.9.1 福田辰男 所蔵

太平洋戦争後初めて山車は、戦後の復興に相応しい祝舞の「寿三番叟」の歌舞伎などの芝居の前に祝儀として行う舞。能の「翁」を歌舞伎化したもので、稲作の農作業をたどり豊年満作を祈る、めでたい舞である。

「三番叟鈴」人形の手に握られているのは三番叟鈴。上から3個5個7個の音色の違う鈴が3段についており、稲穂の実るさまを造形的に表した形で三番叟などの祝舞や巫女舞に使われる。

この写真では、戦前から保管された古いものに見えるが、おそらく戦中に金属は供出されており、これは木材や竹で作った模造品であろう。



1949.9.1 福田辰男 所蔵

歌舞伎「義経千本桜」大物浦の段より。
安徳帝は帝の身にありながら西海に漂い、平家の一門とともに戦の中で苦しんだ。
実は安徳帝*は姫宮であり、それを知盛たちの父、平清盛が

外戚*になりた望みで以つて男宮と偽り、皇位に就けたので、天照大神の罰があつたという。平清盛の四男、知盛は幼い帝を義経に託し、自らは船に乗つて大物浦の海に出ると、碇を担いで海に身を投げ果ててしまう。

*安徳帝=史実では治承4(1180)1歳で即位6歳で壇ノ浦の戦いで入水し崩御した。
*外戚=帝の母親又は妃の一族。



1948.9.1 福田辰男 所蔵

昭和 20 年代～ 30 年代の子供半纏の変遷



昭和 29 (1954.9)
既成と思われるの小若の半纏



昭和 32 (1957.9)
背中に白地で「魚」の揃い半纏



昭和 34 (1959.9)
腰に紺の波頭、背に墨で「魚」

天つ風 雲のかよひ路吹きとぢよ
乙女の姿 しばしとどめむ
花の色は 移りにけりないたづらに
我が身世にふる ながめせし間に
咲く花に 思ひつくみのあぢきなき
身にいたつきの 入るも知らずて
宗貞
小町
黒主

常磐津 積恋雪関扉 登場人物
「墨染」は元禄時代、京伏見の茶屋(遊郭)があつた地名からであらう、他の三人は平安時代六歌仙と呼ばれた有名な歌人。ここに著名な歌を掲げる。

小町桜が咲き誇る雪の逢坂の関。
近くに住む良峰宗貞のもとに恋人の小町姫が訪ねてきて、関守の関兵衛の素性を怪しむ。関兵衛は野望の成就祈願に使う護摩木とするため、小町桜を切り倒そうとする、そこに遊女墨染が現れ関兵衛を口説く。実は墨染は小町桜の精、関兵衛は伴黒主と各々の本性を現し激しく争う。

昭和 26 年 「岩見重太郎」



1951.9.2 堀端町・明治天皇行在所舊址 * 碑前（現 内丸1丁目・市庁前ロータリー） 集合写真 撮影者 不詳

この年、六日町出身の富岡喜平がニューデリーでのアジア競技大会で自転車競技の金メダルを獲得翌年のヘルシンキオリンピックに出場している。同氏はその後長く六日町で自転車店を営みながら後身の育成にも力をそそぎ、その一方で六日町附祭りの製作運行にも尽力した。

ロータリーのヒマラヤ杉は現在に比べるとずいぶん小さいが、山車の大きさはそれと比べるべくもなく小さい。しかし右奥の行在所舊址碑は地上5mで、比べても高さ5m以上はあったようだ。昭和33（1958）には電線切断の恐れから4m以内にしよう要望があったという。
*行在所舊址＝天皇の休憩所の建物跡

集合写真には僅かであるが八戸小学校の校舎が写っている。この校舎は、昭和49（1974.1.12）に全焼し、売市小待の二中隣に移転、しばらく子供たちはプレハブ校舎に通った。

昭和二十六年九月サンフランシスコ講和会議で対日講和条約、日米安全保障条約が調印された。同月、黒澤明監督の映画「羅生門」がベニス国際映画祭 * でグランプリを受賞した。
同年の山車は「岩見重太郎」歌舞伎などで有名な桃山時代の伝説的豪傑。諸国を武者修行して狒々や大蛇を退治する。
場面は力づくで大蛇の口を開けているところ。堂々の一等賞。
中央のネクタイ姿の岩岡徳兵衛市議会議長（後の八戸市長）剣士俳人で考古学者の音喜多古剣らは当時の審査員と思われる。

*ベニス国際映画祭＝Mostra Internazionale d'Arte Cinematografica イタリアのヴェネツィアで、毎年8～9月初旬に開催される。カンヌ国際映画祭 ベルリン国際映画祭と並ぶ世界三大映画祭のひとつで、世界最古の歴史を持つ。

昭和 25 年 「浦島太郎」



1950.9.2 類家帽子屋敷・岩常醤油合名会社前（現 類家2丁目 廣澤寺駐車場付近） 集合写真 撮影者不詳

昭和二十五年 この年 月より年齢は満年齢で呼ぶこととなり、旧制高校 * では最後の卒業式となった。
九月三日にはジェーン台風が徳島に上陸し関西では大きな被害が出た。ディズニーの名画「白雪姫」が公開になり、その後日本映画でもセル画によるアニメーションの手法が 般化するようになった。
写真は、おそらく中日に岩常や福牡丹 * に門付し、休憩を兼ねて集合写真の撮影となったのだろう。板重に煎餅とりんご箱には袋菓子と思われるものが用意されている。戦後の衣類配給制 * はこの年で終わりと成るが、衣類は充分ではなく、子供たちの衣装はマチマチであった。

寺町である静かな吹上類家地区だが岩常や福牡丹といった醤油や日本酒の醸造蔵があった。岩常は六日町の現在の大松ビル付近に支店を構え、昭和30年代には醤油味噌とともにタバコやソフトクリームの販売をしていた。醤油醸造はその後、松和、岩徳、加藤などが共同で会社を作り岩常の蔵を引継ぐが昭和50年代に当地での製造を終了。
*福牡丹は太平洋戦時下、八戸市に多数あった酒蔵が八戸酒類、八戸酒造の2社に集約されられたとき八戸酒造を名乗った。福牡丹の松橋家は宣伝上手で、町々の問屋商店の軒や田面木堤の太鼓橋にまで看板が掲げられた。後に「男山」の駒井酒造店が新たに「陸奥八仙」を立ち上げ この地で酒造りをしたが、現在は湊の蔵に移転統合。

*旧制高校＝旧制高等学校 東京の第一から名古屋の第八まで、高等学校は現在の国立大学教養課程にあたり修業年限3年。現在の高等学校は旧制では中学と呼ばれ修業年限 は太平洋戦争末期を除き 12 歳からの5年間であった。なお女子に対する教育は、高等女学校が担っていた。八戸高等女学校はこの写真左手前。
*衣類配給制＝衣料切符制度 太平洋戦争中の昭和17（1942）から衣類は、靴下タオルに至るまで、購入に家族の人数・年齢で割り当てた衣料切符が必要だった。

昭和 28 年 ^{みなもとのためとも}「源為朝」



1953.9.1 内丸・金子商店前（現 内丸3丁目 ライオンズマンション付近） 集合写真 撮影者 不詳



1953.9.2 高砂善次郎 撮影

昭和二十八年「RABラジオ」の放送が始まり、むつ湊に市営魚菜市場が開設になった。
鎮西八郎為朝は歴史上は保元の乱に出てくるのみであるが曲亭馬琴の「椿説弓張月」では弓の名手として描かれ、東映映画「弓張月」が昭和三十年に公開されている。
為朝と牛の逸話は「佐賀県黒髪山で、大蛇退治の証として、大蛇の鱗三枚を牛で運ぶが、余りに重く牛が疲れ果てる」という話。
写真には、牛乳組合の看板が写っているが場所は内丸の南部会館北側で、洲崎医院の通り、右のお屋敷の門とその奥の櫓が現存する。
鷹匠小路には牛乳工場があった。

昭和 27 年 ^{らしょうもん}「羅生門*」



1952.9.2 六日町・岩徳醤油本店（現いわとくパルコ）前 集合写真 撮影者不詳

昭和 27 年 見返し「長唄 浅妻」



1952.9.1 高砂善次郎 撮影

羅生門の軒の上に大きな鬼「茨木童子」と「渡部綱」の人形体。
「渡部綱」は都の南のはずれにある羅生門まで鬼退治に行ったが鬼はなかなか現れない、鬼退治に行った証に金札（禁札）を立てて帰ろうとするとそこに鬼が現れる。
写真は、おそらく中日と思われるが六日町の通りで撮られたもの。
鯛のついた福真の看板が見える。
「昭和軒」には中華そばの看板が。子供たちの衣装はさまざまだが腹掛けに屋号や家紋を染め抜いたものがいくつか見られる。
魚町と呼ばれるほど魚屋が多かったが、「松和」「岩常」「岩徳」の三軒は醤油屋、「扇屋」は豆腐屋「大浦」は漬物屋である。

*羅生門=芥川龍之介の小説 大正4（1915）発表 今昔物語に取材し生きるための悪という人間のエゴイズムを描き出す。これ以降しばらく実在した羅城門も羅生門と呼ばれることが多くなった。黒澤明の同名映画「羅生門」 昭和25（1950）は同じく芥川龍之介の短編小説「藪の中」 大正11（1922）が原作。しかし、いずれも渡部綱の鬼退治の逸話とは内容が大きく異なっている。

昭和 30 年 「道成寺」^{どうじょうじ}

桜満開の紀州道成寺。清姫の化身だった大蛇に鐘を焼かれた道成寺は長らく女人禁制だった。やっと代わりの鐘が奉納されることとなり、その供養が行われることに。そこに花子という美しい女がやってきた。聞けば白拍子だという。鐘の供養があると聞いたので拝ませてほしいという。修行中の若い僧は花子の美しさに、舞を舞うことを条件とし入山を許してしまう。花子は舞いながら次第に鐘に近づく。僧たちは花子が清姫の化身だったことに気づくが、時遅し、清姫は鐘の中に飛び込んでしまう。道成寺を舞台とした、安珍 清姫伝説の後日談、娘道成寺、京鹿子娘道成寺とも呼ばれる。

クラウンやダットサン
○型が発売になり、国内では後樂園遊園地、米国ではデイズニールランドが開園した。
この年の題材「道成寺」^{どうじょうじ}では、二重の欄干の上に釣鐘と人形を配し、満開の桜を飾る典型的な二重高欄^{こうらん}の山車となった。
六日町に限れば、典型的な二重高欄の山車はこれが最後となった。



1955.9.3 塩町（現 柏崎 4 丁目）付近 高砂善次郎 撮影

昭和 29 年 「鏡獅子」^{かがみじし}



1954.9.2 十六日町交差点付近 高砂善次郎 撮影

昭和 29 年の参加山車組と題名

吹上	文福茶釜
類家	歌舞伎十八番のうち解脱
八幡町	江戸育ちお祭り左七
下大工町	土蜘蛛
新荒町	三人石橋
廿六日町	桜御殿
十六日町	は組の小町
塩町	義経千本櫻
六日町	鏡獅子
朝日町	足柄山の金太郎
十一日町	天竺徳兵衛
鍛冶町	天の岩戸
柏崎新町	勝相撲 浮名花魁
下組町	ひよどり越
廿八日町	國性爺合戦

八戸市教育委員会 八戸三社大祭文化財調査報告書より

昭和二十九年 ビキニ島での水爆実験で「第五福竜丸」が被爆。青函連絡船「洞爺丸」が台風十五号の影響で沈没した。
鏡獅子は「獅子物」「石橋物」と呼ばれる歌舞伎舞踊のひとつで明治時代に、九代目市川團十郎が初演した長唄舞踊「春興鏡獅子」のことである。團十郎の死後、上演が途絶えていたが、六代目尾上菊五郎が復活させた。
前半は小姓の弥生が將軍の前で踊りを披露する気品のある女方、獅子頭を手にとると獅子の精が乗り移り、後半は荒々しい踊りという対照的な役を 人で踊り分ける。この年の三社大祭は十五台が参加「鏡獅子」は第二位となった。

*春興鏡獅子は幕末明治の志士で歌舞伎座開場にも関わった福地源一郎（桜痴）の作と言われている。

*尾上菊五郎の「鏡獅子」は昭和十一年には小津安二郎監督によって、海外に日本文化を紹介するためのドキュメンタリー映画として撮影されている。

昭和 32 年 「岩見重太郎」
いわ み じゅうた ろう



1957.9.3 塩町付近かと思われる 集合写真 撮影者不詳



1957.9.3 塩町（現 柏崎 4 丁目）付近 高砂善次郎 撮影

昭和三十二年、ソ連（ロシア）が初の人工衛星打ち上げ、コカコーラの日本発売、フランク長井の「有楽町で逢いましょう」が流行。上の写真は、お還り出発前に撮られたものであろう、あるいは行列途中の中休みかもしれない。路面が白いコンクリート舗装なので、出発点の鍛冶町片町ではなく表通りの塩町あたりなのか。大きくデフォルメされた屋根と刀を振り上げた大ぶりの人形、赤い顔の狒々とは猿の化け物である。初めて行列に加だった子供には、怖い山車だったことを覚えている。

昭和 31 年 「牛若丸と弁慶」
べん けい



1956.9.1 三日町・大平薬局前 高砂善次郎 撮影

昭和 31 年の参加山車組と題名

十六日町	桜門五三桐
朔日町	第二位 桃太郎
十一日町	第一位 渡辺綱
下大工町	安宅閣
吹上	加藤清正
六日町	第三位 牛若丸と弁慶
鍛冶町	秀作 滝の白糸
柏崎新町	御所五郎藏の内 松の場
八幡町	案珍清姫
新荒町	秀作 鳴神
廿六日町	秀作 歌舞伎十八番 象引
塩町	秀作 茨木
類家	秀作 里見八犬伝
上組町	那須与一
本鍛冶町	和唐内紅流し*
下組町	森蘭丸
新組町	助六由縁江戸桜
廿八日町	岩見重太郎
子供お祭会	えびす舞

八戸市教育委員会 八戸三社大祭文化財調査報告書より

昭和三十年 南田洋子、長門裕之主演で「太陽の季節」が日活映画となり石原裕次郎のデビュー作ともなった。太陽族が流行に。その方、三橋美智也の「りんご村から」のような哀愁ただよう歌も町々には流れていた。この頃、市内でもTV放送が見られるようになり、当時のNHK子供番組は「チロリン村とくるみの木」だった。在京の民放TVでは「鞍馬天狗」が人気を博した。この年の三社大祭は子供お祭会を含めて十九台の山車が参加し、「牛若丸と弁慶」は第三位となる。

*和唐内紅流し 国姓爺合戦の主人公「和藤内」のこと 歌舞伎では錦旗女の流した血が川に流れる場面を「紅流し」と呼び、国姓爺が「南無三！紅が流れた！」と被っていた笠を脱ぎ捨て、石橋の上で大見得を切るという荒事風の演出が名高い。



1959.9.3 塩町（現 柏崎 4 丁目）付近 高砂善次郎 撮影

「鳴神」の山車写真をお持ちの方はご連絡ください。

このころまで、山車審査は「はちのへ新聞社」が主催しており、泉山醤油合名会社（キッコー泉のマークが優勝旗に描かれている）など地元企業が協賛していた。

世継ぎのない天皇の願いで鳴神上人は寺院建立を約束に皇子誕生の願をかけ、見事これを成就させる。ところが天皇が寺院建立の約束を破ったため、怒った上人は呪術を用いて、雨を降らす竜神を竜壺に封印してしまう。そのため国中が旱魃（干ばつ）になり農民は困り果てる。

帝は女色をもつて上人の呪術を破ろうと、美女「雲の絶間姫」を上人の所に送り込む。上人がうっかり姫の胸元に触れたが最後、女色に狂い、酒に酔い眠ってしまう。姫が竜壺に張つてある注連縄を切ると封印が解け、竜神がそこから飛び出し豪雨になる。

やがて酔いが醒めた上人は、それに気づくと、烈火のごとく怒り髪は逆立ち、衣は燃えさかり、逃げた姫を棍棒を振りかざし探しまわる。

*「鳴神」貞享元年（1684.1）初代市川團十郎が自ら書き下ろし江戸中村座の『門松四天王』（かどまつしてんのう）において上演したものが基「美女と怪龍」（びじょとかいりゅう）の題で昭和 30（1955）に制作された東映時代劇映画は「鳴神」をコミカルに映画化したものである。



1961.8.22 または 8.23 集合写真 撮影者不詳 撮影地不明（鍛冶町の片町と思われる）

昭和 36 年 「^きくにやぶんざえもん
紀の國屋文左衛門」



1961.8.23 吹揚・横濱自転車店前（現吹上3丁目）高砂善次郎 撮影

昭和三十六年、この年五月には白銀大火が起こり、白銀から鮫町に至る三十万平方メートルが消失した。昨年の津波に続く災害に意気消沈する浜の人々を元気づけようと、歴史に残る大型の波山車に、八体もの人形を乗せて、審査員や観客の度肝を抜いた、当然の第一位。三波春夫の豪商一代「紀伊國屋文左衛門」のレコード発売、紅白での歌唱はこの後五年を経ているから、時代の先取りをした題材でもあったといえる。

昭和 35 年 「金太郎^{こいと}鯉捕り」



1960.8.22 または 8.23 三日町・伊吉書院（現さくら野百貨店）前 高砂善次郎 撮影



1960.8.21 新荒町・斗ヶ沢農機前

昭和三十五年 この年五月八戸港をチリ地震津波が襲い大きな被害を出した。「どくどくマンボウ航海記」がベストセラーになり、NHKテレビでは、ドラマ「ポンポン大将」が放送されていた。復興祈念で行われたこの年の三社大祭には十九台の山車が参加。この年から日程が八月二十日〜二十三日に変更になった。「金太郎鯉捕り」は秀作となった。上の写真は、中日に湊方面への門付けに向うところであろうか。

昭和 38 年 ^{べんけい ひきづりがね} 「弁慶の引摺鐘」



1963.8.21 集合写真 鷹匠小路・現オリオン駐車場付近 撮影者不詳



毎年9～10月は若者連のレクリエーション、8月には海水浴もあった

むかし、^{ふじのひやと}藤原秀郷^{たけふらした}田原藤太が
三上山の百足退治のお礼に琵琶湖
の龍神より頂いた鐘を三井寺に寄
進した。その後、宗門の争いで弁
慶がこの鐘を奪い比叡山へ引き摺
り上げ撞いてみると「イノー・イ
ノー」（関西弁で帰りたい）と響い
た、弁慶は「そんなに三井寺に帰
りたいのか！」と怒って鐘を谷底
へ投げ捨ててしまう。

昭和三十八年 この頃の山車小
屋は鷹匠小路の映画館跡地（現オ
リオン駐車場）付近である。

昭和 37 年 ^{ふな べん けい} 「船弁慶」



1962.8.21 堀端町（現 内丸1丁目）八戸市庁前 高砂善次郎 撮影



昭和三十七年 七月、台湾のコ
レラ騒動で台湾バナナの輸入禁止。
八月、堀江謙一がヨットで太平洋
単独横断に成功した。

切腹（松竹）、椿三十郎（黒沢
プロ）といった邦画が人気であった。
^{よしつね}義経、^{べんけい}弁慶ゆかりの^{ちゅうそんじこんじき}中尊寺金色
堂はこの年から六年にわたる大修
理が行われた。

当時新築だった八戸市庁舎旧館
バルコニーから望遠レンズで撮っ
たと思われるこの写真には映画の
看板や風船を手に持つ子供が写っ
ている。背景は佐藤旅館と隣接の
集合店舗である。

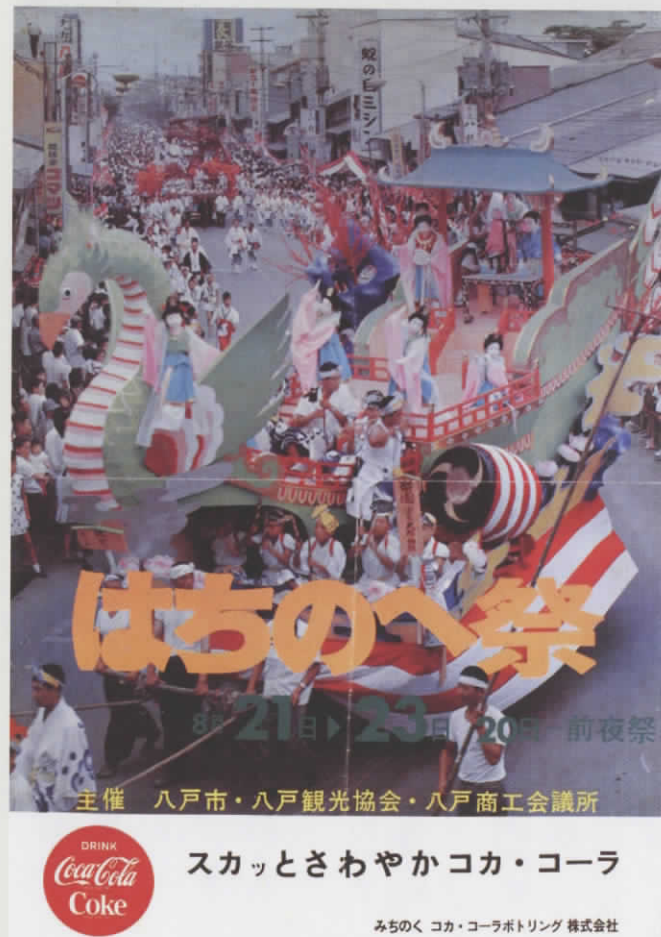
山車が小ぶりに見えるのは、望
遠レンズの効果によるもので、船
の大きさも昨年のみかん船と同じ
である。

昭和 40 年 「楽園 浦島太郎物語」

昭和四十年 この年日航がジャ
ルパックを始め、海外旅行が 般
化しグアム・ハワイの楽園ブーム。
TVでは手塚治虫のジャングル
大帝が放送され、洋画ではサウン
ドオブミュージックやメアリーポ
ピンズといった作品が公開された。
第 次ベビーブームが終わり、
子供の数が減り始め、「浦島太郎」
は子供の好きな題材ではあるが、
曳き子の減少には歯止めがかから
なくなっていた。



1965.8.3 柏崎新町 (現柏崎4丁目) 付近 高砂善次郎 撮影



翌昭和41年(1966)の「はちのへ祭」ポスタ 廿三日町付近

六日町附祭山車小屋 場所の変遷



- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 昭和 21 年頃 松和醤油店前 | 11. 昭和 62 年頃 日活劇場跡 |
| 3. 昭和 30 年頃 秋山魚店隣 | 12. 平成 2 年頃 福真倉庫隣 |
| 4. 昭和 32 年頃 現岩岡駐車場付近 | 13. 平成 5 年 旧児童遊園地 |
| 6. 昭和 40 年頃 オリオン劇場付近 | 14. 平成 6 年～ 佐々木隆蔵商店 GS 跡地 |
| 9. 昭和 55 年頃 市立第一高校跡 | (一部詳細が不明な部分があります) |

昭和 39 年 「羅城門 渡部綱と鬼女」



1964.8.21 十三日町・八田神仏具店前 高砂善次郎 撮影



1964.8.23 六日町・福真魚店前 福田辰男 所蔵

昭和三十九年 東海道新幹線、
東京オリンピックとすべてが東京
中心のこの年でした。
NHK大河ドラマは「赤穂浪士」
「恋のバカンス」で大ヒットのザ・
ピーナッツはテアトル八戸劇場で
の生公演 (映画モスラ主題曲も歌
っていた) もこの頃だったと思う。
沿道には水銀灯の街灯が整備さ
れ、三日町の丸福ビル (現左工門
のあるマルフク) にはネオン塔が。
この年の山車「羅城門」は秀作
をいただいた。京都平安京の羅城
門に伝わる数々の鬼の伝承にもと
づき「羅生門」「渡部綱」「茨木童
子」とも呼ばれる。

羅城門=平安京朱雀大路の南端の大門 天元3年(980.7.9) 暴風雨で
損傷してからは修理されず、都の衰えと共に荒廃していた。

昭和41年「猿飛佐助忍術修行の場」



1966.8.21 摄影奢 摄影地 不祥

昭和 41 年頃の運行経路

← お^{とお}通り 8月21日 3.9km
→ お^{かえ}還り 8月23日 3.0km



猿飛佐助については諸説あるが、信濃の鳥居峠の麓に住む鷲尾佐太夫の息子幸吉、井辺武助とも言ふ。戸隠の山の中で猿と遊んでいるところを、戸澤白雲斎に見出されてその弟子となる。

甲賀流の忍者だが、甲賀の里で修行した経験はない。真田幸村に使へ真田十勇士の人。

その他、伊賀忍者上月佐助が猿飛佐助であるという實在説も。

デーリー東北 1967.8.20 号 暮らしの詩「人形づくり 20 年」村井芳雲（村井治兵衛）さん より

昭和42年 きつねただのぶ
「狐忠信」

「狐忠信」こと佐藤忠信は平安時代末期の武將で、義経の家臣。「源平盛衰記」では義経四天王の一人として描かれている。

「義経記」での忠信は、義経の家臣となつて吉野から 人都に戻り奮戦するが、鎌倉方に居場所を密告され壮絶な自害をする。

義経記の名場面は、歌舞伎演目の「義経千本桜」では「狐忠信」こと「源九郎狐」となっている。

佐藤忠信は神通力を持つ源九郎狐の化身という設定。

歌舞伎の演目では狐詞や狐手が使われ、白い生地に白い絹糸をよじって刺繍する「毛縫」という衣裳で、狐の体を表現しているが、はたして山車ではどういう表現が写真が無いだけに想像が膨らむ。

「狐忠信」の山車写真を
お持ちの方はご連絡ください

昭和 43 年 ぼうれいとももり
「亡霊知盛」



1968.8.21 内丸 1 丁目旧八戸小学校前 撮影 高砂善次郎

昭和四十三年 この年五月三陸
東方沖を震源とする「1968十
勝沖地震」が起こり八戸地方は甚
大な被害を受ける。災害復興を祈
念して行われたこの年の「はちの
へ祭り」は十九台の山車が参加。
六日町は鍛冶町の「船弁慶」と競
作となるがいずれも秀作となった。
たいのともり
平知盛は、壇ノ浦の戦いで鎌倉
軍と最後の戦いに及ぶが、劣勢と
見るや自ら入水して果てる。
この物語は「碓知盛」や「大物
浦」として知られるが、死んだは
ずの知盛は幾度も亡霊として表れ、
義経主従を襲う。
実は知盛は生きているが、亡霊
が義経を討ったということにして
源氏の目をくらまそうという策略。
しかし、義経はその計略を見破
り灯明を焚いて亡霊を退散させる。
能楽の「船弁慶」の後段と同じ
話で、薙刀なぎたを振るって義経に襲い
掛かる知盛を、弁慶は数珠を持ち
経文を唱えて追い払う、やがて引
き潮に流され知盛は沖に退散する。



昭和44年「雷公」

1969.8.21 類家縄手下 上田時計店付近 集合写真 撮影者 不詳

昭和 45 年 「加藤清正の虎退治」
かとうきよまさ とらたいじ



1970.8.21 撮影者不明

昭和四十五年 長崎屋八戸店が
 八日町に開店、中心街は絶頂期に。
 この年初めて八戸青年会議所が
 参加、参加山車組は初めて二十台
 の大台に乗った。
 この頃は「お通り」「お還り」
 のコースでは右下の写真のように
 商家ばかりか民家でも軒花のきばなを飾る
 風習があった。



1970.8.21 鍛冶町吹上付近 高砂善次郎撮影

昭和 46 年 「義経八艘飛び」
よしつね はっそう と



1971.8.21 堀端町・青森銀行八戸支店前 撮影者不明

昭和四十六年 この年八戸短
 期大学が開設。 はしだのりひ
 この「花嫁」がヒット。
 「壇ノ浦の戦いで、敵の猛将平
 教経のりつねに追い詰められ、義経は船
 から船へ八艘飛びで逃れた」

昭和 48 年 ^{ほげいくじら}「捕鯨 鯨とりの場」



1973.8.21 堀端町・青森銀行八戸支店前 撮影者不明

六日町と鯨

昭和 48 (1973)	秀作	捕鯨 鯨とりの場
昭和 62 (1987)	秀作	くじらの八戸太郎と熊野浦の漁師
平成 11 (1999)	優秀賞	鯨ヶ浦に吉兆
平成 12 (2000)	努力賞	大漁祈念 蕪嶋伝説
平成 20 (2008)		波濤奮迅 八戸太郎

鯨石と八戸太郎伝説

昔、鯨の恵比寿浜に紀州熊野灘から大鯨が訪れ、浜に大漁をもたらした。浜の人々は大漁の神様として篤くもてなしていたが、鯨は故郷の紀州に帰ってしまう。ところが、紀州に帰った鯨は熊野の漁師に追われ、傷ついた体で八戸にたどり着いた。やがて浜にあがり鯨石になり、浜の守り神になったという。鯨の恵比寿浜漁港隣接、西ノ宮神社に祀られている鯨石がそれといわれている。

昭和四十八年 交通ゼネスト
第一次オイルショック、金大中
事件勃発。ガロの「学生街の喫茶店」がヒット、邦画では「津軽じょんがら節」が公開。TV
では「ドラえもん」が放映。
八戸では八戸鉦山（八戸キャ
ニオン）から埠頭への。石灰石
運搬地下ベルトコンベアが完成。
この年の山車は初参加のデー
リー東北を加え二十三台。六日
町は初めての大きな鯨で秀作を
いただいた。最優秀は青年会議
所の「十二支と守本尊」だった。

昭和 47 年 ^{うしわかまる}「牛若丸と弁慶」^{べんけい}



1972.8.23 大工町・於本病院前 高砂善次郎 撮影



1972.8.21 長谷光祐 所蔵

昭和四十七年 八戸出身の文豪
三浦哲郎の「忍ぶ川」が映画化。
この年、八戸工業大学が開学。
NHK大河ドラマは「新・平家
物語」なので源平物が多く、六
日町は「牛若丸と弁慶」場面は
「京都の五条大橋」*で武蔵坊弁慶
と義経が始めて出会うところ。
この年、最優秀は類家町内の
「白虎隊」となった。

*五条大橋 弁慶は五条大橋で笛を吹きつつ通りすぎる義経と出会う。弁慶は義経が腰の見事な太刀に目を止め、薙刀を振りかざし挑みかかるが、欄干を飛び交う義経にかなわず 降参し義経の家来となった。その当時、五条大橋は未だ存在せず、「義経記」では堀川小路から清水寺での出来事とされている。

昭和 50 年 「くりから峠の夜襲」



1975.8.1 堀端町・青森銀行八戸支店前 撮影者不明



1975.8.1 三日町・丸光（現 さくら野百貨店）前 高砂善次郎 撮影

昭和五十年 八戸では、白銀に第三魚市場が完成した。テレビでは「まんが日本昔ばなし」の放映が始まり、布施明の「シクラメンのかほり」がヒット。この年、城下が加わり山車組は二十四組。六日町は「くりから峠の夜襲」という初めての題材で秀作を獲得した。

*倶利伽羅峠（くりからとうげ）の戦いは、平安時代末期の寿永2（1183.6）に、越中 加賀国の国境にある砺波山の倶利伽羅峠（現富山県小矢部市～石川県河北郡津幡町）で源義仲軍と平維盛率いる平家軍との間で戦われた合戦。治承・寿永の乱（1180～1185）における源氏平家の戦いのひとつで、これ以降平家はしだいに劣勢となる。



1974.8.20 高砂善次郎 撮影

昭和 49 年 「浦島太郎」



1974.8.23 鍛冶町片町（糠塚長者山下）向井洋服店前

昭和四十九年 八戸市職員互助会が「大阪夏の陣」で初の最優秀。吹上、鍛冶町が優秀賞をとり長者山新羅神社の組が三賞を独占した。



1977.8.23 十一日町屯所付近 高砂善次郎 撮影

*石橋山の戦い 平安時代末期の治承4(1180)に源頼朝と大庭景親ら平氏方との間で行われた戦い。治承 寿永の乱の緒戦のひとつ。この戦いで加賀美遠光の三男光行は源頼朝に与して戦功を挙げたため、甲斐国南部牧(山梨県南巨摩郡南部町)を与えられ、このときに南部姓を称したという。

昭和五十二年 この年八戸では八戸大橋と八太郎大橋が 部開通となり港の交通の利便性が向上。参加山車組は青年会議所、日商

月金会、デーリー東北新聞社を含めて二十四台。最優秀は塩町の「(新)め組のけんか」、優秀賞は糠塚の「加賀美流騎馬打球」

青年会議所の「南部三郎光行石橋山の戦い」*でいづれも南部発祥八百年を祝うものだった。



1976.8.21 類家繩手下・吹揚*郵便局前 高砂善次郎 撮影

昭和 51 年 「海神*」



1976.8.21 内丸1丁目・長谷川新聞店付近* 長谷光祐 所蔵

*内丸1丁目(現在)本八駅通りから三八城公園へ直角に抜ける道路、内丸旅館(当時)の駐車場、左隣は長谷川哲夫市会議員宅(当時)と思われる。

*吹揚(ふきあげ) 現在の「吹上」の表記は住居表示に伴うもので郵便局名は「吹揚」である。また、同郵便局のある住所は、現在(2013)の山車小屋と同じ類家繩手下であり、鍛冶町、吹上3丁目に接している。

昭和五十年 この年ロッキード事件が起こる。十月には昭和天皇御在位五十年記念式典が行われた。五木寛之の「青春の門」がベストセラーになり、子門真人の「およげ!たいやきくん」やキャンディーズの「春 番」がヒットした。
上の写真は、鍛冶町から吹上への角を曲がるお通り行列、この頃は吹上小学校前を曲がり新長横町を上るコースである。

*海神=(かいじん、わたつみ) 日本神話に登場する海神は、大綿津見神(おおわたつみ)であり。伊弉諾尊(いざなぎ) 伊弉冉尊(いざなみ)二神の間に生まれたとされるが、それ以降の伝承はない。記紀においては伊弉諾尊は須佐之男命(すさのおのみこと)に海を治めるよう命じているが。この山車では「蛸」、「鯨」、「龍」を底津綿津見神(そこつわたつみ)、中津綿津見神(なかつわたつみ)、上津綿津見神(うわつわたつみ)という海神三神の化身として描き、上方に伊弉諾尊を拝している。

昭和 54 年 「武蔵坊弁慶」
むさし ぼうべんけい



1979.8.23 鍛冶町・大工町交差点付近 高砂善次郎 撮影

昭和五十四年 この年八戸―室
蘭のフェリー就航。
三菱製紙が初参加。最優秀は塩
町の「南部俵つみ」であった。

昭和 55 年 「羅城門」
ら じょうもん



1980.8.21 荒町・南部食糧（現ライケット）前 撮影者 不明

昭和五十五年 この年八戸では
塩町トンネル開通、市庁新館（現
本館）が竣工。前夜祭は六日町
を含む通称裏通りにて行われた。
「平安京、南のはずれ、羅城門
に出た巨大な鬼が金札（禁札）を
握り潰し、剛勇で知られた武将、
渡部綱に襲い掛かっている」
山車に鬼、匹、人形 体は寂し
く思うが、この話他に何が必要と
いう訳ではなく実に潔い構図だ。



1980.8.20 六日町・久保田ビル前 高砂善次郎 撮影



1978.8.21 堀端町・青森銀行八戸支店前 撮影者不祥

昭和 53 年 「紀伊国屋文左衛門」
き のくにや ぶんざ えもん

＊紀伊国屋文左衛門

延寛の「江戸真砂六十帖」には「八丁堀
の材木商で、大金持ち、銭座を請け負い、
江の島に石垣を寄進、吉原で小粒金の豆ま
きをするなど豪遊し、老後は深川八幡宮の
辺りに住み、8年前に死んだ」とある。

この本には紀州出身であることもみかん
でもうけたことも記されていない。

「井川村史」「静岡県史」によると、大井
川上流駿州井川山と遠州千頭山から、第1
回は元禄5（1692）から静岡の材木商松木
郷蔵と5年間、第2回は元禄10（1697）から
紀文だけで5年間、第3回は元禄15（1702）
から郷蔵の兄左衛門と5年間伐出した。

また紀文が伐って運び出されていない材
木5万本があり、これを地元民が運び出した
という願書が享保年間に出されてる。

（2012.5 江戸東京博物館館長講演 同友の会誌）

「文左衛門」が二十代のある年
紀州はみかんが大豊作。これ
を江戸に運ぼうとしたが航路
は嵐に閉ざされていた。江戸
に運べずみかんは暴落、江戸
では正月用のみかんが届かず。
これに目をつけた文左衛門は
舅の高松河内から大金を借り
てミカンを買集め、家に残
った古い大船を直し、命懸け
で嵐の太平洋に船出した。大
波を越え、風雨に耐えて何度
も死ぬ思いをしながら文左衛
門は江戸へたどり着いた」
これは、幕末の絵草子「黄
金水大尽盃」*によるもので、
実際の紀伊国屋文左衛門*は
元禄時代、主に幕府御用の材
木を扱った豪商であった。

*黄金水大尽盃 嘉永7・文久3頃（1854）為永春水作、一雄斎国光画の絵草子。早稲田大学図書館等に蔵書
（早稲田大学図書館は一般公開されていないが、インターネット・古書籍データベースでの画像閲覧が可能）

昭和 57 年 「日蓮と蒙古襲来^{にちれん もうこしゅうらい}*」



1982.8.1 内丸1丁目・市庁前 高砂善次郎 撮影

*日蓮と蒙古襲来 幕府のある鎌倉に出て法華經をもって布教活動を開始した日蓮ですが、それは他の仏教宗派を否定する活動でした。その頃、地震や暴風雨、飢饉や疫病などの災害が相次ぎその原因として「人々が正しい法である法華經を信じずに、浄土宗などの邪法を信じていることにある」と対立している宗派を非難。「このまま邪教を放置すれば、国内では内乱が起こり外国からは侵略を受ける」と元寇（蒙古襲来）を予言するが逆に迫害を受け佐渡に流刑となる。

昭和 58 年 「朝比奈二郎義秀^{あさひ な さぶろう よしひで}」



1983.8.1 廿三日町付近 フォートセンター惣門^{そうもん} 撮影

昭和五十七年 八戸港水揚げ高史上最高を記録、浜は活況を呈した。この年からお通りが八月 日に「日蓮^{にちれん}」は六日町ではこれ 度限。

昭和五十八年 この年八戸市博物館が完成、展示が斬新で好評。初参加の丸光（現さくら野百貨店）は「新七つ面」で最優秀。

昭和 56 年 「神話 天の岩戸^{あま いわ と}」



1981.8.23 寺横町*・村上機械店前 撮影者不明

昭和五十六年 日本書紀に出てくる「天の岩戸」の神話。
「天照大神が弟神である須佐之男尊の狼藉に腹をたてて洞窟に隠れてしまわれた。女神であり太陽神でもある天照大神が隠れたので、神々の住む高天原は闇につつまれてしまった。
八百万の神々が相談して、洞窟の前で声良し鶏を鳴かせたり八咫鏡^{やたのかがみ}を作り、洞窟の隙間から天照大神が覗いた時、御姿が写り眩さに驚く道具立てをした。天宇受賣命が、桶を伏せて上に乗り、女体をさらけ出して踊ったところ神々がどつと沸いた。何事が起こったのかと天照大神が覗いたところを豪腕で知られる、天手力雄神が岩戸を開けて、天照大神を引き出した」

*寺横町 お還りの出発点の鍛冶町大工町に続く通り。昭和 56 年当時は、村上機械店＝南部クボタ、鴨沢塗料店＝日本ペイントといった商店があったが、今はその多くは卸センターや郊外に店を移している。
お祭りの写真を多く撮られている。カメラの和弘さんもここにあった。
お還りの行列がこの先の角を曲がるといよいよ六日町である。

*八咫鏡 三種の神器のひとつ、咫（あた）は円周の単位で 0.8 尺、八咫の鏡は（古代の円周率は $4 \times 0.8 = 3.2$ なので）直径 2 尺＝約 46cm（古代の 1 尺は 23cm）平家とともに西遷した安徳天皇とともに鏡は壇ノ浦に沈み、それを源義経が八咫瓊勾玉とともに回収したものが、今日も伊勢神宮と宮中賢所に置かれている。

昭和59年「子と七福神」



1984.8.3 鍛冶町・大工町交差点付近 高砂善次郎 撮影

昭和五十九年 新井田インドア
リンク、新図書館完成。三菱製紙
最後の参加「西遊記」で最優秀に。
新幹線を待ち「ひびけやまびこ」

昭和60年「茨木童子」



1985.8.1 廿三日町・神明宮付近 フォートセンター惣門 撮影

昭和六十年 第四十回スケート
国体が開催、水産会館開業。
この年初参加の長横町が「豊漁
・満作・恵比寿大黒」で努力賞。

波だったら「パッシャ——ン」
牛が走ってきたら「ドドドドド」
見た人に、音が聞こえるような山車が六日町

六日町附祭若者連

元山車制作責任者 石橋敏文

小学校に入る前位からお祭りに参加してた
んじゃないかな。まずは引き子、次に紙貼り
小学校高学年になって小太鼓だった。今年復
活した「魚」の腹掛けは自分が小さかった頃
はあったけど、なぜか消えた。今回作ったの
は少し字が大きかったかなって思っているけ
ど…。この腹掛けを貰えるって事は正選手の
証拠。当時五、六枚しかなかったはず。私が
貰った時、一つ上の先輩が貰えなかった。そ
したら「お前、外してそっちへやれ」って言
われた時は悔しかったなあ…。

昭和三十六年【紀の国屋文左衛門とみかん
船】の時が中学 年生で小太鼓は卒業してた
んだけど元老さんに「今年の山車は狙いだか
ら、審査の時小太鼓を叩け」って言われた思
い出がある。

小さい頃から、お祭りが好きだったんだろ
うね。ずうっと山車の制作に携わっていた。
ただ、昭和四十 年から昭和四十五年まで、
お祭りから離れていました。

昭和四十年末頃には、それまで山車の題材
や構図を手掛けて居た人形師の村井治兵衛さ
んが高齢になり、先輩や元老さん達とも合わ
なくなつて、昭和五十 年【海神】を小泉さ
んが中心に、五十二年【茨木童子】を小泉
中島、石橋の三人での合作と云う事になった
んだけど、三人三様で意見が合わなくて、結
局中途半端な山車になってしまった。

次の年の昭和五十三年に「私にやらせて下
さい」って言ったら、何年間も制作から門付
けを 人でやっていた元老の中島精治さんに
「お前何をやりたいのよ」って言われて「紀伊
国屋をやってみよう」って言ったら「俺もそ
う思っていたけど、やれ」と後押ししてく
れて、私が手掛けさせてもらった訳。それ
ら、秀作の 番目。位は何連勝もしている
最盛期の塩町、二位から四位は甲乙つけがた
いと云う評価を頂いた時は嬉しかったよ。

調子に乗って次の年、後に浦島をやりたく
て建物山車に挑戦したんだけど、人手が足り
なくて、前夜祭の出発の時にまだ金槌の音が
していた。主役の弁慶を目立つようにもう少
し上にあげたかったけど「間に合わない、も
う付けろ」って言われてやむなく出陣。

この年は賞どころじゃなくて赤字を出して
しまつて…。次の年の【羅城門】その次の年
の【天の岩戸】あたりはちよつと静かにして

いたんだけど、その次の年の【日蓮と蒙古襲
来】の時、大工さんが怪我をして来られなく
なつたので途中からの復活だった。

昭和五十八年の【朝比奈三郎鮫生捕りの場】
の時は、竹で作った鮫。案外紙は丈夫で竹を
引張るし竹は元に戻ろうとするので、出っ
張るように作つたつもりが凹んでみたりで、
発砲スチロールで作るようにはいかなかった
ので「竹に逆らうなよ」って云う事を自分に
言い聞かせて作るようになったな。今、制作
をしている彼等にも教えてきたつもり。

昭和五十九年の【子と七福神】も間に合わ
なくてやっぱり徹夜、徹夜の連続で「飯食お
う」って座れば、体が傾いて知らないうちに
眠って居てね。

平成二年【杜子春】の時は喪中だったんだ
けど、うちは人数が少ないから喪中だから出
られないなんて言っていられなかった。どう
してこの題材にしたかは定かじゃないけど、
扇谷さんと相談して決めた様な気がする。

平成四年【俱利伽羅峠の夜襲】の時は、南
山君の牛の制作での助人役は大きかった。明
日前夜祭だつていう時に松明を作らせたんだ
けど「この松明じゃだめだ！これじゃアロウ
ソクだろう。炎を後ろにヒッパレ。そうすれ
ば牛が走っている様に見えるから」って急遽
全部作り直して出陣。その山車を見た類家孝

「町の中心の人達が太鼓を叩く。角を曲がってしまえば太鼓を触らせてもらえなかった。敏ちゃん、あんだの家は角だから助かったんだよ」って。憲ちゃんの家は寺横町に曲がってしまうんだよね。風張さんもヤグラ横丁に曲がって居るから友達がいる朔日町にからだっらしい。本当に昔は家柄が幅を利かせていて、お祭りになれば山車小屋では今まで見たことない人がごちゃごちゃ集まって来て、さも自分が作ったかの様に振る舞う。へそれはよくない。自分が担当するようになって「そういうのは辞めて下さい。今山車を作っているのは、町内に縁は無いかもしれないですけど、お祭りが大好きで、楽しくてたまらない連

今年、山車は、私は「もう少し、しぶきは長めの物を付けろ」って言ったんだけどね。でも今彼等に引き継いで、彼等の構想も有る訳ですよ。うちのしぶきって云うのは、長くて屋台が揺れればいろんな動きをしてくれる訳。「そこだよ」って言うんだけど、短しぶきをチョロ口と付けた時もあったし、

頃は、毎年小屋を掛けてお祭りが終われば壊すの繰り返しだったけど、土地のオーナーさんがそれを見兼ねて「もう毎年壊さなくてもいいですよ」って言って頂いて感謝しています。うちの山車は、湊まで行ったんだよ。陸奥湊の駅前でUターンして中島石蔵商店さんの冷蔵庫まで行って。当時珍しかった冷凍ミカンをお土産に貰ってきたもんですよ。先輩方は更に白銀、鮫までも門付けに行ってたなあ。魚関係の取り引きがあったからだろうね。

中です。彼らが居なくなれば山車は作れませんよ」って話して辞めてもらった。山車を作っている時は、最後の二三日は徹夜だったね。最後は平らな所でもつまずく様になって虚ろな訳。風呂にも入れないからアメ臭いまま前夜祭に行つて。皆が着飾っている中、そんな余裕なんかない訳。前夜祭が終わってからは、ようやくお風呂に入った時の気持ちの良さは、今も忘れられないねえ。若葉町で作っている頃かな。うちの次男が保育園位の時、私が徹夜で帰れないから息子は一人でマグロ箱に寝かせてもらっていたなあ。息子もそうだったけれども、自分が作った所が一番大事な訳ですよ。「父ちゃん、僕が張った所が壊れた」って。若い連中はそんなんですよ。自分が作った所が壊れたら残念で悔しいって思う。そこから入っていくんだよね。

わずかに短かすぎた時もあった。でも、百二十周年の記念の年に伝統山車賞を貰ってよかったよ。彼等は彼等で次を育てなきゃならないからね。私がやっていた頃は若い者に小屋に「来るな！」って言った事もあるし。でも、作る楽しみを知ったから今もやっているんじゃないのかな。賞に入って涙が出るような山車を作ったって云う事は、それに自分が加わって居た喜びっていうのは忘

さんから「ペコが下ってくる音が聞こえる」って言ってもらった時は嬉しかった。だから今でも若い連中には「波だったらバツシャ——ン、牛が走ってきたら、ドドドドドッって、山車を見た人に音が聞こえてくる様な山車をやれ」と、そういう風に作りなと指導しているんです。

平成十年【鮫ヶ浦に吉兆】。これはうれし涙が出たね。福真さんの看板になっている



けど。その年に特に頑張った若手を審査会場に送り出す訳だけど、出してやった者達が帰ってこない。「あいつら賞も取れなかったから、どっかさ消えたんでないか」って話していた所に、札と旗を隠して現れた。札を皆の前にバンと出した時には、やっぱり皆でうれし涙流して喜んだ記憶があります。その後、平成十三年に八戸ロータリークラブの幹事役が回って来た時に、若い連中達も育った事だし、ここが潮時と思って、彼等に「これからは、お前達がやれ」と引導を渡したんです。

今頑張っている熊野君とか木下君は高校生の時、山車を若葉町で作っている頃からだから何年になるかな。それから長横町で山車を作っていた時には、中のサッカー部員が来て紙貼りを一生懸命手伝ってくれて。彼らの一人に「最後に、小物の樽一個を好きな所に付ける」って言ったら、なかなか付けられなかったのね。でも、自分達も頑張ったから入賞できたって気持ちで、お祭りが大好きになって。そのイレブンのほとんどが進学や就職をして八戸に残ったんですよ。でも、人欠け二人欠けして、あの時のイレブンは名久井君が、人残っているだけかな。

今山車を制作している連中が「今年の山車の出来具合はどうですか？」って聞いてくる

から「マル」って答えると「マルで終わりでいいか？」って。本当は褒めてもらいたいんだよね。でも、見返したたけどクサナギノツルギを持ったスサノオが炎に囲まれた場面は「あれは上手いかったな」って褒めた記憶がありますよ。

彼らにも、「賞に入ったらうれし涙が出て、賞に入らなかったら悔し涙が出るような山車を作れ」って言ってます。

うちの山車小屋は、まるでジプシーのようですよ。

私が小学校低学年の頃、今の六日町のコンサートホール前の道路に小屋を掛けた事があって。今では考えられないでしょう？それからロー丁で四く五回場所を移動して、最後は現在のオリオン駐車場の所だったな。それから、元の遊園地の跡地、現在の長者公民館若葉町、現在の血液センター、長横町で作った時もあったなあ。長横町山車組と山車小屋を並べて作った昭和六十二年、長横町の連中が六日町の山車を「あつたらの山車じゃない」って言っているのが遠まわしに聞こえて来てね。でも結果は六日町の方が上位だった。そしたら長横町の今井君が「申し訳ありません。いらない事を言つて」って謝りに来た事もあったなあ。現在地に山車小屋を掛けた





1986.8.1 廿三日町・神明宮前 高砂善次郎 撮影



1987.8.1 廿三日町・神明宮前 高砂善次郎 撮影

昭和六十一年 八戸自動車道開通。
「山椒太夫」は日本の古典、森鴎外の
小説でもある。童話『安寿と厨子王』
も原典は同じ。安寿が入水する場面。

れないと思うし。生懸命やって出来上がった山車を評価して頂いた時は、本当に涙もんですよ。お還りの時、山車が町内に差し掛かれば五色のテープ、紙吹雪にクラッカーで迎えてくれる。やっぱりあの時も鳥肌が立って涙が出る。町内の人達から応援して貰っているなって感動する。でも最近では元々の町内の人が少ないので、寄付を頂きに行けば本社の決済が必要なものあれば、逆に毎年待つてくれている人たちも居る。門付けの時の態度や振る舞い方を指導しているけれども、そこら辺は彼等も守ってくれているよね。

そうそう、浴衣の話思い出した。六日町の半纏はずっと石岡呉服店さんが手がけていたんだよ。ところが半纏の柄が変わった時があった。右肩に「魚」の文字が入るはずなのに左にきたり、波の柄が少し小ぶりになった時もあった。いよいよ石岡さんが出来なくなつた時、当時のニチイの店長さんが協力してくれる事になって、ニチイで取引のある染屋さんに連絡を取ったら『偶然』元々の半纏の染め型が出てきた。おそらく石岡さんが染屋さんを変えていたんだろうと思う。その型は六日町附祭若者連で買い取って、今は町内の

伊山京染店さんで管理している。本当に偶然よく見つかったなって思うよ。

それともう一つ、半纏の話。今はTシャツや飯の半纏が流行りだけど、他町内の真似をしたのか、若い人達が私たちに内緒で腰切りの半纏を作った事がある。その時は扇谷さんが「八戸一番の半纏に自信がないのか堂々と六日町の半纏は八戸で番と粋な気持ちで着ればいいんじゃないか」って言ったらお祭りの時は誰も着ていないね。ただ、誰かの結婚式等に羽織って太鼓を叩いたりしているみたいだけど。

いろんな人が声を掛けてくれたね。それでまた頑張れた。正部家種康先生もその人。「間に合ったらが？」って毎年声を掛けてくれた。夏坂君が吹上の山車をやっている時、自宅に帰る時には必ず鍛冶町を通って六日町の山車小屋を見て帰って居る。「六日町は何をやるかわかんない」って話していると噂に聞いた時は、山車を頭から小屋に入れて裏返して隠したな（笑）。そんな時もあったよ。

お祭りやっているとおかげで仲人もやったね。林君の時は結婚式が半年伸びて、その間にうちの三人目がお腹に入ったので「お腹の大きいお嫁さんは見聞きするけど、お腹の大きい

仲人は聞いたことがない」って言って代わってもらった事もあったな。あれだけ叫びつけた子供たちがお嫁さん貰う時に「石橋さん、お願いします！」ってくれば、やっぱりめいいよね。

お祭りの期間中で言えば、叫びつけられたお姉ちゃん達が自分の子供を連れて参加してくれているので、俺にすれば孫を連れて来てくれる様なものだから嬉しいよ。

この間も「何年生になった？」って聞いた。俺は小学生のつもりで聞いたのに「下は中学生で、長男は二十になる」だって。おいっ！そんなになつて居るのか？って驚いていると子供に「あのおじちゃん昔おつかない人だったんだよ」だって。

この連中がついて来てくれたから今がある。叫びつけられても辞めないで、私から言われた事はちゃんと守って居るし。私にしてみれば「有り難い」という気持ちがいっぱいあるし。クジラを作った時に、こいつらも育つたなあと感じたし。後は彼等に任せてもいいなと思った。私は良い連中に恵まれたと思つて居る。お祭りって何かが有るんだよね。来年も家でカダルヨ！！「カデデネ」。

昭和六十二年 種差海岸が「日本白砂青松百選」に選ばれる。
六日町の「くじらの八戸太郎と熊野浦の漁師」は秀作になった。



1989.8.1 廿三日町・神明宮前 高砂善次郎 撮影



1989.8.1 廿三日町・神明宮前 フォトセンター惣門 撮影

平成元年 なんと二年連続の浦島太郎である。昨年付けても付けきれなかった魚がカーテンのようになって八百匹。史上最高の数を更新である。昨年の努力賞に続き今年も奨励賞をいただいた。



1988.8.1 廿三日町・神明宮前 高砂善次郎 撮影

六日町と浦島太郎

昭和 25 (1950)	第二位	浦島太郎
昭和 40 (1965)	秀作	楽園 浦島太郎物語 (翌年のポスター)
昭和 49 (1974)		浦島太郎
昭和 63 (1988)	努力賞	乙姫様と浦島太郎
平成 元 (1989)	奨励賞	浦島太郎
平成 3 (1991)		竜宮に遊ぶ七福神
平成 8 (1996)		浦島太郎物語「乙姫様出迎の図」

昭和 63 年 「乙姫様と浦島太郎」



1988.7.31 内丸1丁目 南部会館付近 高砂善次郎 撮影

昭和六十三年 鯛や平目が舞い踊りという浦島太郎の歌にならない、山車そのものを巨大な亀に見立てた斬新な構図の山車。
下手側回転部の大きな鶴には独立した車輪が付けてあったと思う。子供も大人も頭に魚の飾りをつけて行列、努力賞をいただいた。

平成2年 「杜子春」
とししゅん



1990.8.1 廿三日町・神明宮付近 高砂善次郎 撮影

平成二年 この年ラピア開業。
金持ちの子に生まれ、浪費癖の
絶えない杜子春、閻魔大王は、畜
生道に落ちた杜子春の両親を連れ
て来て、彼の前で鬼にめった打ち
にさせる。耐え切れず「お母さん」
と 声あげ夢から醒める杜子春。



平成3年 「竜宮に遊ぶ七福神」
りゅうぐう あそ しちふくじん



1991.8.1 廿三日町・神明宮付近 フォートセンター惣門 撮影

平成三年 雨のお通りである。
竜宮の魚たちが雨を呼んだのか。
この頃から、TV中継等の関係
で雨天での順延は無くなった。



優秀賞

八戸三社大祭
優秀賞
八戸



1992.8.1 廿三日町・神明宮付近 カメラの和弘 撮影

平成4年 「倶利伽羅峠の夜襲」



1992.8.1 ゆりの木通り フォートセンター惣門 撮影

平成四年 「鶴越^{ひかりこえ}」と並び称される逆落としての奇襲「倶利伽羅峠の夜襲」 山車は、牛を二十頭近くも作り、取り着かなかった牛はトラックで待機、前夜祭会場やゆりの木通りに出てから取り付けた。山車の後方全体がセリ上がりとなっており、峠を逆落としに下る牛の軍団が、まっ黒い塊となつてこちらに迫ってくる。

優秀賞をいただいたが、六日町の歴史に残る山車のひとつである。

*鶴越 平家物語によると、平安時代の末期の寿永3/治承8(1183.5)源氏平家の一ノ谷の戦いにおいて、源義経が精兵70騎を率いて、一の谷裏手の断崖絶壁の上から坂を駆け下る奇襲をかけ平家は敗走した。この前年寿永2(1183.5)の倶利伽羅峠の戦いで源義仲に敗れた平氏はすでに兵力の大半を失っていた。





1994.8.1 廿三日町・神明宮 付近 カメラの和弘 撮影

平成6年 「四面楚歌 加藤清正」



1994.8.1 長者3丁目／糠塚平中付近 フォートセンター惣門 撮影

平成六年 加藤清正は三社大祭ではお馴染みの題材だが、この場面、四頭の大虎に囲まれて加藤清正は苦戦している。

加藤清正、朝鮮出兵をするが宿敵石田三成、ライバルとも言うべき小西行長そして明・朝鮮という内憂外患に行く手を阻まれる、この四面楚歌の状況を四頭の虎に例えた。努力賞をもらう。

文禄の役（1592～）では、秀吉の命で朝鮮へ出兵。明 朝鮮と本格的な講和交渉が始まるが、秀吉の条件は明にも朝鮮にも受け入れられるものではなかった。このため秀吉の命令を無視してでも和睦を結ぼうとする小西行長 石田三成らは、清正が講和の邪魔になると見て、彼を秀吉に讒訴。清正は京に戻され謹慎となる。

平成5年 「朝比奈三郎義秀 巨鯨捕りの場」



1993.8.1 ゆりの木通り・長者3丁目／糠塚平中付近 フォートセンター惣門 撮影

平成五年 雨・気温十三度の寒いお通りとなった。

正治二年（二〇〇年）九月、時の將軍源頼家が、船を出し酒宴を催していたが、水練の達者である義秀は海に飛び込み、二匹の鯨を抱きかかえて浮かび上がり、その大力を示した。頼家がその技を賞して奥州産の名馬を賜るが、この馬は相撲勝負の間に兄の常盛にかすめ取られてしまう。

映画ジョーズが公開されてから久しいが、鯨の恐怖は世の東西を問わず人々の心に深く刻み込まれている。

土地・建物の売買、買取
アパートの仲介も致します

（公社）青森県宅地建物取引業協会会員 青森県知事免許（3）2907号
八戸液化ガスグループ

株式会社ベストライフ

〒031-0033 青森県八戸市六日町22-6（長横町通り）
TEL 0178-22-2553



1996.8.1 三日町・中央ビル前 岩岡徳衛 撮影



1995.8.2 六日町いわとくパルコ前

保育園児を引き連れ赤いマイクを手放さない岩岡三夫は祭りの人気者だった。普段温厚な性格だが、祭りの正装をするとき威勢が良い。祭りの最中は、行儀の悪い若者など理不尽なことには腹を立て、血気盛んなどころもあった。

平成7年 「源頼政 鶴退治」
みなもとのよりまさ ぬえ たい じ



1995.8.1 廿三日町・神明宮前 フォートセンター惣門 撮影

1995.8.4 デーリー東北 新聞紙面

平成七年 三陸はるか沖地震
阪神大震災と大地震が続いた。
中心街は大きな被害を受けた
が祭りは平年どおり開催できた。
山車は源頼政の鶴退治。鶴と
は夜の都を脅かす怪獣、頭は狒
々、胴が狸、手足は虎、尾が蛇
であった。

平成八年 五年ぶりの浦島太郎、しかしまたしても雨のお通り、浦島太郎と雨はジンクスになりつつある。
魚たちが水を呼ぶのか、道路一面が水鏡になり山車と引き子を美しく写し出している。
今更ながら、白地に紺の波頭をあしらった魚町の衣装半纏は素晴らしいと思った。



1998.8.1 ゆりの木通り・長者3丁目／糠塚平中付近 フォートセンター惣門 撮影

平成十年 六日町としては、ただ 度の「かぐや姫」が題材の山車である。
満月の夜、月からの使者が迎えに来るのを、弓矢で打ち落とそうとするが敵わず、かぐや姫は月に連れ戻されてしまう。
右下はお還りに六日町町内を運行する山車。いつものようにテープや紙吹雪が飛んでいる。



1998.8.1 三日町・中央ビル前 岩岡徳衛 撮影



1998.8.3 六日町・うみねこ出版社 提供



1996.8.1 廿三日町・神明宮付近 フォートセンター惣門 撮影

この頃、廿三日町と荒町の間
の鍵型には、TV中継のため櫓が
設置され 部をプロカメラマン
等が利用して撮影をしていた。
またもや雨の浦島太郎である。



1997.8.1 廿三日町・神明宮付近 フォートセンター惣門 撮影

「鎌倉方の圧力で藤原秀衡の子
泰衡は父の遺言に背き、衣川で
義経を襲撃。弁慶は持仏堂門前
で必死の防戦をするものの、無
数の矢を受けて命を落とした」

*無念・弁慶 藤原秀衡が死ぬと、子の藤原泰衡は源頼朝の威を恐れて、父の遺言を破り、文治5(1189)春、義経主従を衣川館に襲った。多数の敵勢を相手に弁慶は、堂の入口に立って戦い、雨の様な敵の矢を受けて立ったまま死に、「弁慶の立往生」と語り継がれた。 義経主従は自害あるいは逃れたとの伝承も。

たいりょうきねん かぶしまでんせつ
平成12年「大漁祈念 蕪嶋伝説」



2000.7.31 三日町・中央ビル前 カメラの和光 撮影

平成十二年 長引く不況で山車組としても寄付や門付けで頂戴するご祝儀の減少に歯止めがかからない。経費節減のために二年連続の登場となった鯨。苦肉の策で、ゴンドウウクジラからシロナガスクジラに変身である。苦勞の甲斐があったのだから、努力賞をいただく。この年、製作・運行のすべてにわたり文化庁の調査に協力。



2000.7.18



さめ が うら きつちょう
平成11年「鯨ヶ浦に吉兆」



1999.8.1 廿三日町・神明宮前 フォートセンター惣門 撮影

平成十年 お通りは気温三十五度、日の当たる路面はおそらく四十度を超していた違い無い。

この炎天下に涼しげな波山車は格好の題材で、みごと優秀賞を獲得した。

これを含め鯨の山車は昭和四十七年の「大昔の鯨とり」以来、通産五回のうち四回が入賞している。

巨大な鯨は波山車の中でもまさに六日町の独壇場、十八番の題材となった。

真 高級鮮魚 給食用鮮魚



六日町附録

有限会社 福真 代表取締役 福田 充宏
本店 〒031-0033 八戸市六日町30 TEL(0178)44-2099 FAX(0178)44-2098
支店 〒039-1161 八戸市河原本神才 八食センター店 TEL(0178)28-9353

六日町「福真」本店では鯨が大型看板、そして名刺にもなっている



2001.8.1 三日町・石岡ビル前 フォトセンター惣門 撮影



平成十三年 とにかく巨大な鯛
お通りの雨を受けて 際色鮮やか。
文化庁の重要文化財指定の調査
を受けながらの制作。
当時の町内会長久保田さんも毎
日のように山車小屋に見えていた。



八戸屋台村
みろく横丁
Hachinohe Yatai village Mirokuyokocho
<http://www.36yokocho.com>
南北のグルメ都市
食の文化資料館 包(パオ)内
八戸市卸センター 2-5-18
TEL 0178-29-0815

ちよっとイイとあつた日は
美味しいものが食べたい！
八食センターへGO!
八食センターは食材のプロが目利きしたものばかり！
新鮮で美味しいものが豊富に揃っています！
特別な日のお祝いものは八食センターで！
〒039-1161 青森県八戸市河原木字神才 22-2 TEL.0178-28-9311(代)
■定休日 ●市場様・味横丁・水曜日(祝日除く) ●くりやスタジアム/無休
通年営業時間
市場様 午前9時～午後6時 飲食街・味横丁 午前9時～午後6時30分(土・日・祝日) 飲み場・お土産 午前9時～午後9時
ホームページアドレス ●<http://www.849net.com/>

2004.7.20 デーリー東北



2000.7.25 デーリー東北

平成十二年から約三年にわたり、六日町としても国の重要民俗文化財指定に向けた調査に積極的に協力し、山車製作からお囃子の練習、運行の全般にわたりビデオ撮影、聞き取りなどの調査を受けた。

この模様は数回にわたり地元新聞の記事となった。「引き子の衣装や足元にも気を配り伝統を守る」という言葉は、伝統の継承にかける山車組全員の意気込みでもある。

伝統とはとどまらないこと。
おかげさまで創業83年を迎えます。

金剛
割烹

八戸市鷹匠小路18 金剛ビル4F
☎ 0178 (46) 3322



平成14年 「獅子王頼政の鶴退治」

2002.8.1 三日町・石岡ビル前 岩岡徳衛 撮影



鶴退治に源氏の 門で武勇の誉れ高い頼政が選ばれた。深夜、頼政が御所の庭を警護していたところ、民の方角よりもくもくと黒雲が湧き上がり、その中から鶴が現れた。

頼政は弓で鶴を射、駆けつけた郎党が太刀で仕留めた。

この鶴退治の功により帝より頼政に下賜された太刀が獅子王*である。



*獅子王 平安期の刀で重要文化財。幕臣土岐家が代々伝え、明治時代に東久世家を通して明治天皇に献上された。現在、東京国立博物館に収蔵されている。



2003.8.1 三日町 さくら野百貨店前

平成 15 年 「須佐之男命と八俣大蛇」



ひとときは大きい須佐之男の人形と巨大な青い竜が目を引く。当時の相撲人気力士にあやかり関係者には朝青龍と呼ばれた。この年は山車小型化の試行のため審査は無かったが、六日町の山車は*杵和紙人形作家の高橋寛子さんに「色使いに着目、極彩色にこだわらず青を基調にスケールを全面に押し出した」八戸美術連盟顧問の山根勢五氏には「造形的に優れている」とお誉めをいただいた。

*2003.8.2 デーリー東北紙面『評価は観衆の目に』より引用

須佐之男命と奇稲田姫

須佐之男命は天より降って出雲の国のひの川に立つ。その時、川上で泣き声が、老夫婦が娘を間にして泣いていた。老夫婦には八人の娘がいたが毎年一人ずつ八俣大蛇に食べられてしまい、末娘の奇稲田姫だけになってしまった。スサノオは、「八俣大蛇を退治する代わりに奇稲田姫を嫁に欲しい」と申し出た。

須佐之男命は奇稲田姫の体に触れるとたちどころに櫛の形に変えそれを頭に挿し、強い酒を八つの瓶に盛って大蛇を待った。八岐大蛇が現れ、眼は赤い鬼灯のよう、背には松や柏が生えている。大蛇は頭を其々の瓶に入れ酒を飲み干し、酔って眠ってしまった。そこで須佐之男命は剣を抜いて、八岐大蛇をずたずたに斬った。尾を斬った時、剣の刃が少し欠けたので、尾を割り裂いて見ると、中に立派な剣があった、これが草薙剣（くさなぎのつるぎ=三種の神器のひとつで、天皇の武力の象徴）である。

平成 15 年 「須佐之男命と八俣大蛇」製作のようす



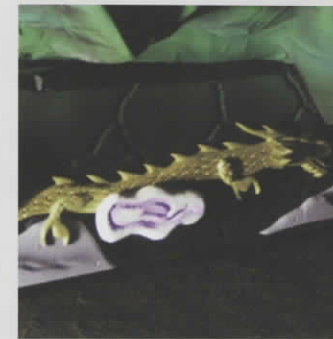
7月8日



7月22日



7月24日



7月27日



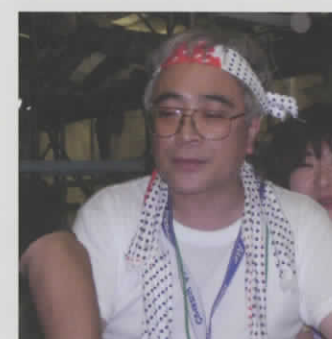
7月31日



8月4日 後夜祭・三日町



8月4日 山車小屋にて



祝 三社大祭参加 120 周年

オリエンタル酒販株式会社

業務用酒卸 代表取締役 佐々木 康之

八戸市鷹匠小路14番地
電話 (0178) 43-1912

祝 三社大祭参加 120 周年

岩岡駐車場

岩岡 哲治

八戸市鷹匠小路13-1





2004.8.3 八日町・八戸信用金庫（現青い森信用金庫）本店前 東奥日報社 提供

平成十六年初めて設けられた
伝統山車賞をいただいた山車。
お還りの行列も終わりに近づき
夕日を受ける山車は翌日の新聞

紙面を飾ることとなる。
これから三年間連続して伝統
山車賞獲得のきっかけとなった。



6月15日



電気溶接作業



紙貼り用の新聞紙切り



6月28日



6月30日 人形の位置決め



軽量化のため羽根は中空構造



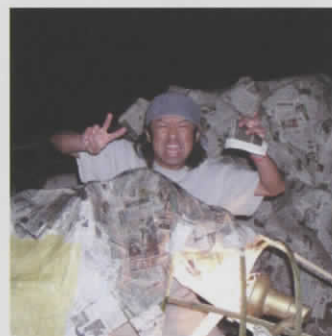
丁寧に波の面取り



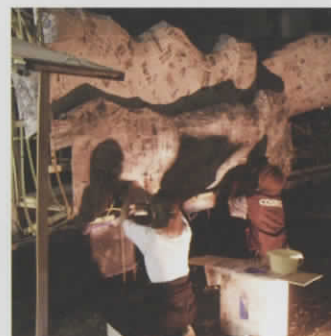
7月1日



今日はまず全員で紙貼りを



イエーイ



ただ黙々と紙貼りを



深夜、数百羽のうみねこを削る



7月4日



発泡ウレタンを切って波を



発泡スチロールを正確に貼付



鯛のヒレを補修中

ロマンと出逢いの
オラクルセンター

八戸市六日町37 TEL43-1575

株式会社
66コーポレーション
(はせビル)

代表取締役 長谷一夫

オフィス（整体のコスモス）
〒031-0072 八戸市城下四丁目7-29
TEL 0178-47-1616



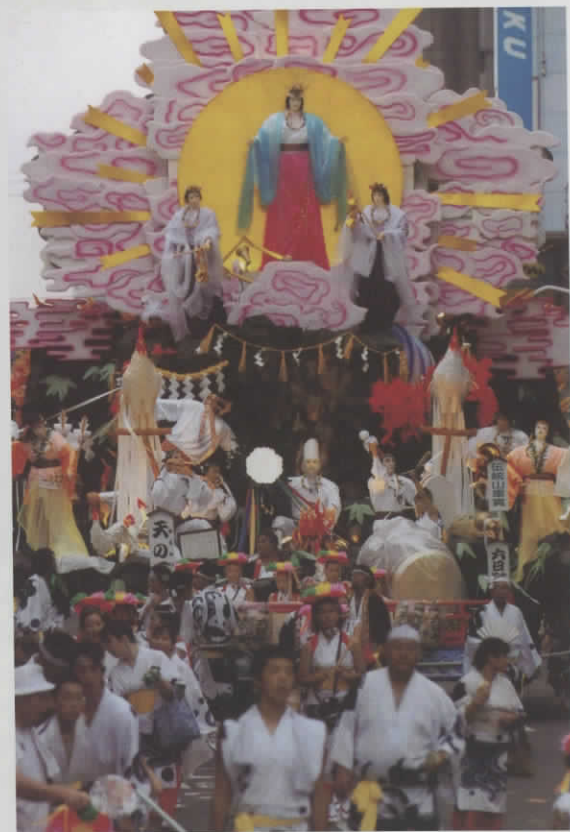
はせビル
八戸市六日町6





平成 17 年 「あま いわや と 天の岩屋戸」

2005.8.1 集合写真・八戸市庁前市民広場 撮影 岩岡徳衛



2005.8.3 三日町・マルフクビル前 東奥日報社 提供

平成十七年、二年連続の伝統山車賞に輝いたこの山車は典型的な岩山車の形式を取りながら、回転の人形に踊りの動きを加えた斬新なものとなった。
連続の伝統山車賞受賞でまたもや翌日の新聞各紙の紙面を飾ることになった。
上の集合写真の背景に写りこんだ波の飾りつけにもご注目を。



好評だった見返し、草薙の剣を持つ須佐之男命

平成 17 年 「天の岩屋戸」 製作の様子



6月12日



6月15日



電熱ニクロム線で発泡を切る



仕掛けの肩、強固なベアリング



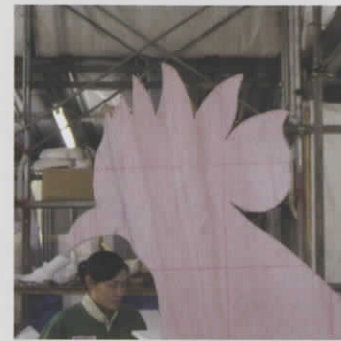
6月22日 段ボールの岩



仕掛けと人形の配置チェック



7月3日 総出で新聞紙貼り



7月5日 対でつく大鶏の芯



7月9日 セリ上がりの後方



7月12日 ハトロン紙を貼る



7月17日 岩に色がついた



鶏の尾はスチレンペーパー



7月24日 セリ上がりに色が



7月29日 欄干を塗る



7月31日 早朝



残念ながら載りきらない鶏々

建設資材販売・塗床工事
株式会社 山村壁材店

八戸市沼館2丁目5-4 TEL0178-43-5100
青森市油川字岡田53-3 TEL017-718-5277
三沢市三沢字堀口17-165 TEL0176-54-2233

仕出しの店
なかうめ

〒031-0053 八戸市徒士町1-2
TEL 0178-22-1361
FAX 0178-22-1362

ごうほうきのくにやぶん ざえもん みかんぶね
平成 18 年「豪放 紀国屋文左衛門と蜜柑船」



2006.8.1 三日町・さくら野百貨店前



2006.8.1 内丸1丁目・市庁前市民広場

平成十八年 六日町の十八番と言われる波山車、しかも過去二度とも入賞している題材「紀伊国屋文左衛門」である。

山車の規格いっぱいの帆とセリ上がりの仕掛けは鉄骨が見えない工夫が。群青の巨大な波と緑、オレンジ、白の色使いも見事。

秀作、伝統山車賞の二冠をいただいた。





テレビ局の取材



屋台村でのお囃子



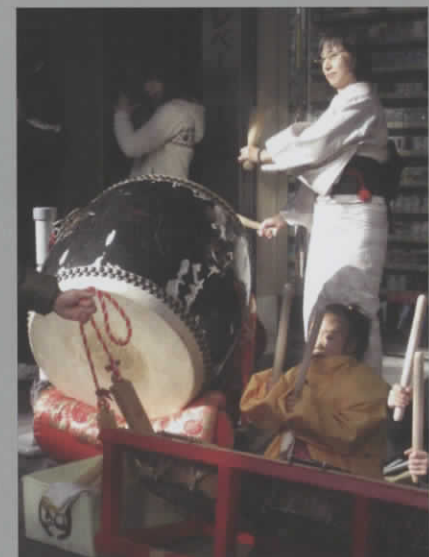
八戸での全日本おかあさんコーラス青森大会



ユートリーでのふるさとフェスタ出演



三日町での恒例七夕のお囃子練習



正月の餅つき大会で
飛び入り参加の
和服のお姉さん、
凄腕でした。

祝三社大祭参加120周年

株式会社 岩徳
八戸市六日町10
Tel.0178-44-7101
ちょっと魚つとあ〜と六日町 いわとくパルコ

ろくもんせん
禄文銭
青森県八戸市六日町29 TEL 0178-45-8398

難を言えば、舟が沈みすぎている。もう少し上げて良かった。それと、小さい舟はいらなかったと思う。題材と小さい舟が結びつかなかった。荒波なのに立っている舟も不思議。私なら主役が乗っている舟をもっと大きくして目立たせる。あと背景の波の上部が丸すぎたが、クジラの潮吹きみたいに迫力のある波にして欲しかった。

「豪放紀国屋文左衛門と蜜柑船」
六日町山車組
田端隆志／作
二十七台中、一つだけ変わった山車。誰が見ても忘れられない山車である。龍神観音の後ろを肌色にしたことにより、龍神観音が波の中から出てきたような感じがした。波そのものが丁寧。波と波の間を観音様が移動して動く。丁寧に作らないとこれは出来ない。とんでもない作業だ。よくここまでやった。人形のポーズも荒波に揉まれてるように上手く出来ていた。ただ、舟の先と主役の人形を縛りくくりつけた方が良かった。そうすれば荒波がもっと表現出来た。帆柱があがっている人形は良かった。

「秀作&伝統山車賞 六日町山車組」
豪放紀国屋文左衛門と蜜柑船

平成18年(2006年)
月刊はちのへ情報
アミューズ9月号より



秀作&伝統山車賞 六日町山車組
豪放紀国屋文左衛門と蜜柑船

関わりを持たなければ 気持ちがこもらないよ

〈文／小さなデイサービス「へば倶楽部」・類家澄子〉

Vo 32

叔母の言葉通り六日町の山車は素晴らしい。現在の山車の主流は観音開きで歌舞伎風だ。京劇風だ。5、6台通ると全部見えてしまったようなイメージができてしまふほど画一的だが、六日町は別名「さかなまち」の名の通りサカナ海をテーマにし伝統的な山車づくりにこだわっている。「私も六日町を最優秀に一票!」「役所の山車はどっかに素晴らしくても参加賞でいいが」とか「なーしてオラさ審査員になってけんだつて声こがんながべ、ガハハ」とか、酔っぱらってもいないのに勝手な私設審査員席は盛り上がりつつあった。

「昔は(戦前)は男の子しか山車にのりなかつたの。あれ、新井田の子どもの達の半天眼なら、昔を思い出さなんだよ。前掛け鈴つこいっぱい付けて、鼻白つけてめんこいこと」毎日山車を見て毎日同じこと言っているに違いない叔母達を横目で見つめてしまった。(未来の私だ……)

「うちの主人があたつて寝たきりになったあと、ずーっと私が世話したの。部屋の中にポータブルトイレ置いて、そんなことで孫達もご飯食べて育ったから、じいちゃん汚いとか、うちの孫達から聞いたことないの。2年前に主人が亡くなったでしょ。孫達に春進級する時にお祝いの金あげて言ったら、いいよ祖母ちゃんとおいて、今まで祖母ちゃん大変だったから祖母ちゃんが使えんと言ってくれたのよ」とYちゃんが言う。15年も長い間の介護は大変だったろうね。お嫁さんの協力もあつたろうし、理想的な家族の関係だ。

「せっかくなら八戸まで来てくれたんだから」とか言っちゃって「五郎ちゃん、五郎ちゃん」と何色だかわかんない歓声をあげていた。回りを見渡すとキーンキーンと手を伸ばし携帯をバシバシやっていたのは、60代から70代のオババ達なのだ。さすがオバちゃんパワー全開の街、八戸なのだ。

今、三社大祭は青森ぶたに迎合し夏祭りのカタチをとってしまっているが、本来秋祭りなんでもね。静寂を破るように、ピーという笛のものの悲しい切ない音階の一声で始まり、太鼓のカカッ、カカッ、カカッ、カカッ、ドーンでブローグ。始まり始まりというので祭囃子そのものにストーリー性があるんだな。一旦盛り上がったところで音頭あげ、笛のリードが格好良く、太鼓はお腹に響いた。役所前から三日町に山車が曲がり、ここは腕の見せ所とばかりに太鼓の名手がたたくと拍手があがることもあった。太鼓だけでたたきたくも美しかった。今は片肌脱いだ茶パツおネちゃんが大太鼓をたたき、20、30人の笛吹き大所帯だ。「いやー今のワラシンドは綱の引き方も知らないナス。ただ掴まっただけで、ほれほれちゃん」と引張ねばナス「笛吹きの多いこと! 20人もいたんでないの。人数いねば音こにならないのかしら」ますます勢いづいて勝手放題しゃべっているのだった。ああ、カンベキ昔はあーだったオバサンに絶対なっちゃう。

夏休みは山車作りの手伝いで小屋に入り浸り、様々な事を教わる。遊びながら仲間づくり、上下関係、下の子の面倒、お遣い、仕事の段取りなど、大人の世界を体験できる季節だったのさ。祭り当日だけの参加じゃない。7月から8月と山車にはまり、何かしらの手伝いをするものだから、自然とホンスもついてくる。

平成 19 年 「福德七神蕪嶋の舞」



2007.8.1 内丸 1 丁目・市庁前市民広場

ふくとくしんかぶしま まい
平成 19 年 「福德七神蕪嶋の舞」



2007.7.31 三日町・AXIS ビル前

平成十九年 この年からお還りの運行終点は三日町交差点に戻された。
六日町は伝統山車賞は逃すものの二年連続の秀作となった。



平成 21 年 ににぎのみこと てんそんこうりん
「瓊瓊杵尊 天孫降臨」



2009.8.1 三日町・ワシントンホテル前



2009.8.1

2009.7.31

2009.7.11

平成二十一年 この年は「合掌土偶」が国宝となり、山車もそれにあやかり、縄文時代や神話に取材したものがいくつかあった。
六日町は三年ぶりの伝統山車賞。

平成 20 年 「波濤奮迅 八戸太郎」



2008.7.31 三日町・AXIS ビル前



平成二十年 この年の六日町は待望の「鯨」を題材に若手を中心のメンバーで製作。追い込みの七月二十四日早朝、震度六弱の岩手県北地震があり町には被害もでた。残念ながら入賞はならなかった。

平成 23 年 「復興祈願 蕪嶋神社・浦安の舞」



2011.8.1 内丸1丁目・市庁前市民広場



2011.8.1 長者1丁目 ゆりの木通り

平成二十三年 未曾有の被害となつた「東日本大震災」からの復興祈願として審査なしで行われた。いつも馴染みのウミネコとしぶきだが、復興祈願と被災者への供養の短冊がつけられている。審査の無い開放感か、参加の親子はいずれも和らいだ表情。中央左の檣館さんはこれが最後の祭りとなつてしう。

平成 22 年 「紅蓮炎上 本能寺」
ぐれん えんじょう



2010.8.1 三日町・旧 Rec 前



2010.8.3 六日町・いわとくパルコ前

平成二十二年「紅蓮炎上本能寺」部関係者に好評価を得ていた平成十七年「天の岩屋戸」の見返し「スサノオ」の炎に倣い、山車全体を炎で包み、中央に燃えさかる炎で見えない敵に立ち向う信長を配した。
下の写真は、お還りの行列で六日町通りにさしかかる山車。歓声と紙テープが舞う感動の瞬間。

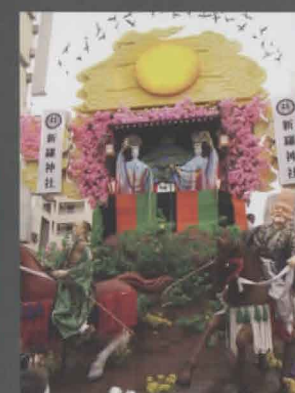
平成 24 年 ちようじゃせんしん ら じんじゃ かんおう えん 「長者山新羅神社 観桜の宴」



2012.8.3 六日町いわとくパルコ前



平成二十四年 昨年に引き続き
伝統的三重高欄の山車。左右の回
転に欄干をつけたが、長者山新羅
神社を写して、茶の木生地の欄干
としている。
桜や牡丹の造花を大きくつける
のは当町内としては、近年めった
に無いことである。袖に「鯉の滝
登り」が着かなかったのが残念。
写真はお還りに町内を通り紙吹
雪に歓喜渦巻くところ。



東奥日報 2013.8.4 号 東奥日報社提供

祝 三社大祭参加 120 周年
味ビル合衆国

八戸味ビル

八戸市大字六日町 19-1
TEL.0178-44-6742



六日町若者連 山車年表

和暦	西暦	台数	題名	賞
明治26年	1893		鍛冶町が仁木弾正（歌舞伎「伽羅先代萩」より）で初参加	
明治27年	1894		六日町初参加、他に廿六日町、十六日町、朔日町が参加 （この頃は5から6台の山車が参加したようだ）	
明治34年	1901	11台		
明治35年	1902	8台	金時 （この間記録なし）	日露戦争1904～
明治39年	1906	6台	廿四孝	
明治40年	1907	7台	小島高德	
明治41年	1908	5台	八幡太郎義家	
明治42年	1909	5台	（参加の記録なし）	
明治43年	1910	6台	俵藤太秀卿 百足退治	
明治44年	1911	7台	源三位頼政鶴退治 （天皇崩御で大祭中止）	
大正 2年	1913	8台	狸々の舞（見返し 養老の滝）	
大正 3年	1914	6台	水戸黄門妖怪退治の図	
大正 4年	1915	10台	田村將軍	
大正 5年	1916	10台	浦島太郎	
大正 6年	1917	12台	宮元武蔵 蝙蝠退治	
大正 7年	1918	11台	石橋	
大正 8年	1919	9台	関戸	
大正 9年	1920	9台	和唐内 紅流を望む	
大正10年	1921	11台	勧進帳	
大正11年	1922	8台	（参加の記録なし）	
大正12年	1923	1台		関東大震災 1923. 9. 1
大正13年	1924	1台		八戸大火 1924. 5. 21
大正14年	1925	9台	娘道成寺 釣鐘供養	
大正15年	1926	9台	坂田金時 妖怪退治	
昭和 2年	1927	12台	素戔鳴尊	
昭和 3年	1928	12台	天の岩戸	2位
昭和 4年	1929	12台	和藤内	
昭和 5年	1930	12台	三條小勝の刀打ち	
昭和 6年	1931	13台	石切梶原	
昭和 7年	1932	13台	弁慶と釣鐘	
昭和 8年	1933	14台	源頼政妖怪射止	
昭和 9年	1934	14台	歌舞伎十八番 暫	



デーリー東北 2013.8.4 号 デーリー東北新聞社 提供

レディスショップ アルファ



六日町 18
0178-22-3231

地方との廻船による交易が盛んになった江戸末期の文化・文政時代、各地に豪商が現れ、江戸では浮世絵や俳句・川柳といった町人文化が頂点に達していた。ところが八戸藩では度重なる凶作で藩の財政はひっ迫し、藩の財政改革を掲げた野村軍記は、贅をおぼえた町民に質素儉約を勧め、その一方大店から多額の御用金を取り立てた。

当時、八戸藩の主な産物は大豆と海産物であったが、凶作の一方で浜に押し寄せるほど獲れた鰯を魚油や鰯粕として加工し江戸方面に運んだ。

七崎屋半兵衛をはじめとする八戸の商人は、競って藩の御雇船を出し江戸、関西との交易をした。しかし、半兵衛は野村軍記の南部藩財政再建のために見せしめとなって、お取り潰しになってしまう。

八戸の名酒 陸奥八仙 / 陸奥男山の醸造元

八戸酒造株式会社

八戸市大字浪町字本町9番地
0178-33-1171
E-mail: info@mutsu8000.com
http://www.mutsu8000.com/

- ・蔵見学予約受付中（要予約・有料）
- ・がんじゃ自然酒倶楽部会員募集中（酒米作りから酒造りまで体験できます）
- ・八戸の屋形船『新井田丸』運行中

いいお酒、つくってます

八戸市大字浪町字本町9番地
0178-33-1171
E-mail: info@mutsu8000.com
http://www.mutsu8000.com/

サニトンドライクリーニング
Sanitone
八戸自洗舎
八戸市上五丁目1番37号 TEL: 43-4513

クリーニング
HLS
八戸リネンサプライ(有)
〒031-0003 八戸市上五丁目1番37号 TEL: (0178) 22-2047・FAX: 43-2808
医療関連サービスマーク認定工場

和暦	西暦	台数	題名	賞
昭和52年	1977	24台	茨木童子	秀作 この年から石橋敏文が製作責任者 この年から三菱製紙が参加
昭和53年	1978	25台	紀伊国屋文左衛門	
昭和54年	1979	25台	武蔵坊弁慶	
昭和55年	1980	25台	羅城門	
昭和56年	1981	25台	神話 天の岩戸	
昭和57年	1982	23台	日蓮と蒙古襲来	この年まるみつが参加
昭和58年	1983	26台	朝比奈三郎義秀	
昭和59年	1984	25台	子と七福神	
昭和60年	1985	24台	茨木童子	
昭和61年	1986	25台	山椒大夫	
昭和62年	1987	25台	くじらの八戸太郎と熊野浦の漁師	秀作
昭和63年	1988	25台	乙姫様と浦島太郎	努力賞
平成元年	1989	25台	浦島太郎 奨励賞	奨励賞 この年からYS吉田産業が参加
平成 2年	1990	26台	杜子春	
平成 3年	1991	26台	竜宮に遊ぶ七福神	
平成 4年	1992	25台	俱利伽羅峠の夜襲 優秀賞	
平成 5年	1993	26台	朝比奈三郎義秀 巨鯨捕りの場	
平成 6年	1994	26台	四面楚歌「加藤清正」	努力賞
平成 7年	1995	26台	源頼政 鶴退治	この年から共作連が参加 三陸はるか沖地震 阪神大震災 この年まで鷹匠小路を通した
平成 8年	1996	26台	浦島太郎物語 乙姫様出迎えの図	
平成 9年	1997	26台	無念 弁慶 努力賞	
平成10年	1998	26台	竹取物語～満月への旅立ち	
平成11年	1999	26台	鯨ヶ浦に吉兆	
平成12年	2000	26台	大漁祈念蕪島伝説	優秀賞
平成13年	2001	25台	恵比寿浜大漁三昧	努力賞
平成14年	2002	27台	獅子王頼政の鶴退治	この年から白山台が参加 この年から田端隆志が製作責任者
平成15年	2003	27台	須佐之男命と八俣大蛇 (審査なし)	
平成16年	2004	27台	豊漁祈願 七福神大漁網引き鯨ヶ浦	
平成17年	2005	27台	天の岩屋戸	
平成18年	2006	27台	豪放 紀国屋文左衛門と蜜柑船	
平成19年	2007	27台	福德七神蕪島の舞	秀作
平成20年	2008	27台	波濤奮迅 八戸太郎	伝統山車賞
平成21年	2009	27台	瓊瓊杵尊 天孫降臨	
平成22年	2010	27台	紅蓮炎上 本能寺	
平成23年	2011	27台	復興祈願 蕪嶋神社 浦安の舞 (審査なし)	
平成24年	2012	27台	長者山新羅神社 観桜の宴	
平成25年	2013	27台	豪商七崎屋半兵衛 八戸浦出帆の図	伝統山車賞

和暦	西暦	台数	題名	賞	
昭和10年	1935	13台	桃太郎鬼退治	入賞	日中戦争勃発
昭和11年	1936	14台	朝比奈三郎和田城門を破る		
昭和12年	1937	3台			
昭和13年	1938		(国民総動員法施行戦時体制に)		
昭和14年	1939	2台	(塩町、八幡町が参加)		
昭和15～20年	1940～1945		(戦中のため山車行列中止)		ポーランド侵攻、第二次世界大戦勃発
昭和21年	1946	8台	寿三番叟		
昭和22年	1947	12台	勸進帳		
昭和23年	1948	11台	常磐津 積恋雪関扉		
昭和24年	1949	12台	碇知盛 (樋口兼光の記録も)	特選	
昭和25年	1950	14台	浦島太郎	2位	
昭和26年	1951	14台	岩見重太郎	1位	
昭和27年	1952	15台	羅生門	2位	
昭和28年	1953	15台	源為朝	1位	
昭和29年	1954	15台	鏡獅子	2位	
昭和30年	1955	17台	娘道成寺 (審査なし)		この年から上組町、本鍛冶町が参加
昭和31年	1956	19台	牛若丸と弁慶	2位	この年から新組町が参加
昭和32年	1957	18台	岩見重太郎	2位	
昭和33年	1958	18台	鳴神	秀作	
昭和34年	1959	18台	源三位頼政の鶴退治	3位	
昭和35年	1960	19台	金太郎鯉捕り	秀作	この年から糠塚が参加 チリ地震津波
昭和36年	1961	19台	紀の國屋文左衛門	1位	村井治兵衛氏が製作 白銀大火
昭和37年	1962	19台	船弁慶 秀作		
昭和38年	1963	19台	弁慶の引釣鐘	努力賞	
昭和39年	1964	19台	羅城門 渡部綱と鬼女	秀作	
昭和40年	1965	19台	楽園 浦島太郎物語	秀作	
昭和41年	1966	19台	猿飛佐助忍術修業の場		
昭和42年	1967	19台	狐忠信		
昭和43年	1968	19台	亡霊知盛	秀作	十勝沖 (三陸東方沖) 地震
昭和44年	1969	19台	雷公		
昭和45年	1970	20台	加藤清正の虎退治		この年から青年会議所が参加
昭和46年	1971	20台	義経八艘飛び		
昭和47年	1972	22台	牛若丸と弁慶		この年から月金、市職員互助会が参加
昭和48年	1973	23台	捕鯨 鯨とりの場	秀作	この頃まで村井治兵衛氏が製作
昭和49年	1974	23台	浦島太郎	奨励賞	
昭和50年	1975	24台	くりから峠の夜襲	秀作	この年から城下が参加
昭和51年	1976	24台	海神		

アイエスビル

代表取締役

中島 健悦

八戸市六日町35



県内随一！豊富な品揃え



国産及び輸入たばこ
葉巻、パイプたばこ
手巻きたばこ、刻み
無煙たばこ、喫煙具
マドロスパイプ各種

八戸市六日町12 大松ビル1階 電話 0178 (22) 9361

SUNROUTE



中心街の便利な宿

ホテルサンルート八戸

八戸市六日町10 いわとくパレコ新館 (フロント3F)

Tel.0178-43-3831

海の町、八戸の旬で一年中にぎわう居酒屋

【営業時間】
午後5時～午前0時
※八戸市六日町13番地
TEL 0178-72-5587
FAX (0178) 72-5586

おんでやあんせ
南部八戸の
新鮮な海の幸で
お待ちしております

イサバの
カッチャの店
肴町の
らぶらさ



昭和 30 (1955.9.4)



昭和 34 (1959.9.3)



昭和 34 (1955.9.3)



昭和 31 (1956.9.3)



昭和 38 (1963) の町内レクリエーション 巻 良之進 所蔵のネガより



癒しのサロン

中央理容室

- ・育毛コース
- ・ハンドパック
- ・美顔パック
- ・ヘアカラ など

八戸市鷹匠小路 4-9 Tel 24-6056
営業時間 8:30 ~ 7:00 定休日 / 毎週 月曜日

寿し 季節料理



鮎 文

中軽米 文夫

八戸市南類家 1 丁目 13-14
TEL・FAX (0178) 45-2295

六日町パーキング

〒031-0033 八戸市六日町 25
TEL・FAX 0178 (43) 7166



石堂温泉

青森県八戸市石堂 4 丁目 15-12
TEL (0178) 28 9020

代表取締役

慶徳 拓也

明治牛乳根城宅配センター

有限会社 慶徳

〒039-1166 八戸市根城 3 丁目 10-4
TEL0178-44-6367 (代) FAX0178-47-3408

meiji
(株)明治 特約店

祝 三社大祭参加百二十周年

ニットショップ セキヤ

青森県八戸市六日町 22 ☎ 0178-22-2723

ご宴会ご予約承り中
● お申し込み・お問い合わせは
☎ 0178-43-3501
お出前も承っております。
お気軽にどうぞ

割烹
さんりく

八戸市六日町二十三
FAX 44-0718

お気軽な
一品料理 御定食より
懐石料理まで

祝 三社大祭参加百二十周年

有限会社 三京

八戸市六日町 22 電話 0178-43-5298



昭和 52 (1977.8.21)



昭和 30 (1955) 頃 瀬川征吉氏 提供



1961.8.20 東奥日報企画広告 柳川宮司と六日町 森 圭子



昭和 37 (1962.8.24) 撮影 岩岡弘二

ワンランク上の時間を

東京第一イン八戸
シングル素泊まり
¥3,900

青森県八戸市鷹匠小路 13
・本八戸駅より徒歩15分
・八戸駅より車で15分
・東北道八戸ICより10分
ご予約・お問い合わせは
0178-46-0001
http://www.td-hachi.nohe.com

東京第一イン八戸アネックス
ご予約お問い合わせは
0178-46-0002
http://www.anx.td-hachi.nohe.com

★月～土曜日シングル素泊まりプラン★
¥3,980
★更にお得な日曜日はシングル素泊まり★
¥2,980

・本八戸駅より徒歩15分
・八戸駅より車で15分
・東北道八戸ICより10分
青森県八戸市六日町31

祝 三社大祭参加百二十周年

ゆりの木ボウル
八戸市鷹匠小路 10 TEL.0178-45-1022

中里デンタルクリニック
院長 中里 好宏
八戸市鷹匠小路 12 TEL 0178-22-2655

■診療時間 平日・・・9:00～19:00
土曜・・・9:00～17:00

■休 診 木曜午後・日曜・祝日

中里デンタルクリニックで検索 http://nakasato-dental.com/

オリオン 駐車場

● 6時～18時	20分	30円
● 9時～18時	最大	400円
● 18時～6時	20分	50円
● 18時～9時	最大	900円

駐車料金 600円以上ご利用の方に「1時間無料券」
をロ一丁側で差し上げております

オリオン商事有限会社
八戸市鷹匠小路 7-1

懐石料理なのに居酒屋価格

ちよぼや 六日町店
八戸市六日町 31 TEL.0178-45-4611

KAMEI DENTAL CLINIC
カメイ歯科

亀井歯科 八戸市六日町 23 Tel.0178-22-0707
定休日 日曜・祝祭日
診療時間 平日 10:00～14:00 15:00～19:00 土曜 10:00～14:00

肴町のわが家
わがまま 貝吹憲子
八戸市六日町 32 久保田ビル 1F TEL/FAX 0178-22-6484

八戸 屋台村 みろく横丁 家庭料理 わが家 TEL 090-2275-0321

ライオンビル八戸館

株式会社ヴィーヴル
八戸市六日町 33-1 ライオンビル八戸館 8 階
TEL.0178-24-3025



昭和 49 年 「浦島太郎」

1974.8.21



昭和 53 年 「紀伊国屋文左衛門」

1978.8.23



昭和 59 年 「子と七福神」

1984.8.21



昭和 56 年 「神話 天の岩戸」

1981.8.23

高砂善次郎 撮影



昭和 55 年 「羅城門」

1980.8.23

原稿締切り後発見された写真の一部です。



昭和 34 (1959.9.3)



昭和 34 (1959.9.1) 石仁食堂前



写真はいずれも
巻 良之進 所蔵

六日町三社大祭参百二十周年記念誌 正誤表

ページ	誤	正
目次	資料・年表 81	→ 年表 85 資料 88
挨拶	鷹匠小路商店振興会	→ 鷹匠小路商業振興会
13 ページ	写真日付 1955.8.3	→ 1955.8.4 *2
24 ページ	撮影者 撮影地 不祥	→ 撮影者 撮影地 不詳
61 ページ	重要無形民族文化財	→ 重要無形民俗文化財
57 ページ	カメラの和光 撮影	→ カメラの和弘 撮影
83 ～ 84 ページ	--- 半兵衛八戸浦出帆の図	→ --- 半兵衛八戸浦出帆の場
85 ページ 年表	大正 2 年 狸々の舞	→ 狸々の舞
	昭和 2 年 素戔鳴尊	→ 素戔鳴尊 *1
	昭和 7 年 弁慶と釣鐘	→ 辨慶と釣鐘
86 ページ 年表	昭和 13 年 (国民総動員法	→ (国家総動員法 ---
	昭和 41 年 猿飛佐助忍術修業の場	→ 猿飛佐助甲賀流忍術修業の場 *1
	昭和 50 年 くりから峠の夜襲	→ 倶利伽羅谷の夜襲 *1
87 ページ 年表	昭和 61 年 山椒大夫	→ 山椒太夫
	平成元年 奨励賞	→ (位置を欄内に修正)
	平成 4 年 優秀賞	→ (位置を欄内に修正)
	平成 9 年 努力賞	→ (位置を欄内に修正)
	平成 12 年 大漁祈念蕪島伝説	→ 大漁祈念蕪嶋伝説
	平成 25 年 --- 半兵衛八戸浦出帆の図	→ --- 半兵衛八戸浦出帆の場

*1 八戸三社大祭文化財調査報告書 (八戸市教育委員会) の表記による

*2 荒天による順延と思われる